

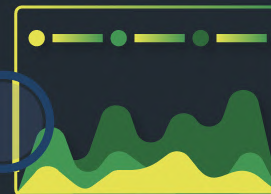
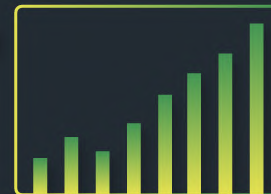
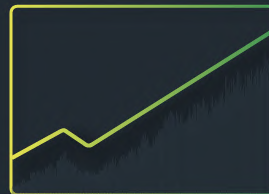
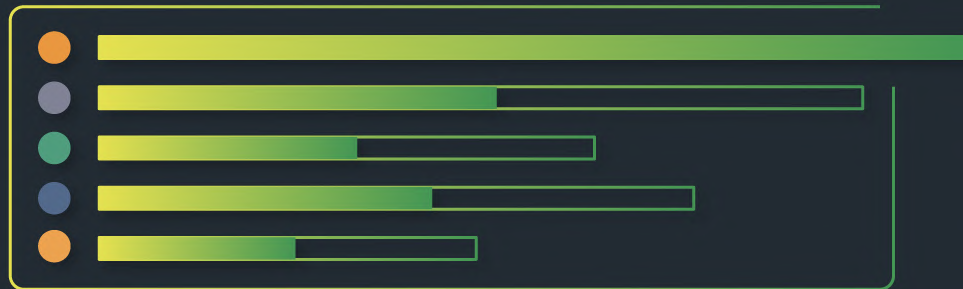


CoinGecko

Quarterly Report

Q1 2022

FULL REPORT



目次

創業者ノート	2
マーケット概観	3
- 2022年Q1 現物マーケット概観	
- 2022年Q1 トップ5仮想通貨リターン	
- 2022年Q1 トップ5ステーブルコイン概観	
- 2022年Q1 時価総額: トップ30仮想通貨 vs ビットコイン vs S&P500	
- 2022年Q1 注目イベントタイムライン	
ビットコイン分析	10
- ビットコイン 価格 vs. 取引高	
- ビットコインマイニングハッシュレート	
- 価格リターン: ビットコイン vs 主要アセット	
- 時価総額: ビットコイン vs. 金 vs. S&P 500 トップ5株式	
イーサリアム分析	15
- イーサリアム 価格 vs. 取引高	
- Eth2.0へのロードマップ	
- イーサリアム・コンセンサスレイヤー・ステーキング	
USTの台頭	19
- 分散型ステーブルコイン	
- なぜUSTは爆発的に成長しているのか	
- USTのビットコイン担保化	

DeFi分析	30
--------	----

- 2022年Q1 DeFi概観
- 2022年Q1 DeFiマルチチェーンマーケットシェア
- 2022年Q1 DeFiエコシステム概観

クロスチェーンブリッジ	23
-------------	----

- クロスチェーンブリッジ概観
- ブリッジのTVL
- ブリッジメカニズム

NFTs(非代替性トークン)	35
----------------	----

- トップ7チェーンの取引高
- NFTプラットフォーム別取引高
- NFTトレンド

取引所	40
-----	----

- 2022年Q1 トップ10仮想通貨取引所
- 2022年Q1 トップ10中央集権型取引所(CEX)
- 2022年Q1 トップ10分散型取引所(DEX)
- 2022年Q1 デリバティブ取引所 – ビットコイン無期限先物 取引高
- 2022年Q1 デリバティブ取引所 – ビットコイン無期限先物 オープンインタレスト
- 2022年Q1 デリバティブ取引所 – ビットコイン無期限先物 資金調達率
- 2022年Q1 GBTC 及び \$BITO のパフォーマンス

Analysts:



Win Win



Benjamin Hor



Shaun Lee



Dillon Yap



Weng Dee



Zheng Kai



Zhong

2022年Q1を振り返ってみましょう。2022年のクリプト市場は不安定なスタートを切りましたが、**高インフレ**や**ロシアによるウクライナ侵攻**、**FRBの利上げ**などのイベントをなんとか乗り切ることができました。最後の数週間は、年初の水準までマーケットは反発し、2兆2000億ドルの総時価総額で終了しました。このような動きは、成長株やハイテク株の反発、つまりTradFiマーケットの動きを反映しています。主要暗号通貨はすべてクリプト市場の波に合わせて変動していましたが、LUNA、ETC、FTT、WAVESは例外でプラスを記録しました。

2021年Q1の高揚感と比較すると、トレーダーが様子見をしているため、クリプト市場の取引高は目に見えて縮小しており、前四半期比で約23%減少しています。一方、NFTプラットフォームでは、市場の下落に伴いトレーダーがトークンからNFTに移行したため、前四半期と比較して取引高が増加しました。

世界的な不確実性もステーブルコインへの移行を促し、今期は時価総額が大幅に増加(+230億ドル)しました。しかし、**最大の勝者はUST**で、LUNAticsの熱狂的な夢に後押しされて60%以上成長しており、Anchor Protocolは20%の利回りを維持しました。本レポートではその動向をより深くご理解いただくために、USTに関する簡単な解説を載せています。

イーサリアムについては、**Kilnテストネットのマージ成功**が重要なマイルストーンとなり、着実にEth2.0に近づいていることが伺えます。イーサリアムのポジティブなモメンタムは、特にETHの価格が回復していることもあり、ETHステーキング需要の追い風となり、現在**総供給量の9%**がステーキングされています。

他の市場と同様に、DeFiも2022年の第1四半期はどん底に耐えました。この年はWonderlandの崩壊で始まり、その他多くのOhmフォークもこの四半期を乗り切れなかったか、ひどく落ち込んでいます。これに続いて、DeFiの著名な貢献者である**Andre Cronjeの引退**は業界全体に衝撃が走らせ、彼の関連プロジェクトは大混乱に陥りました。しかし、DeFiがアルトチェーンを横断する動きを続けていることや、著名な既存プロトコルがアップグレードを続け、ユーザーに拡張機能を提供するなど、いくつかのポジティブな話題もありました。

今期最も注目されたのは、クロスチェーンブリッジでしょう。Stargate (LayerZero) と Thorchainのローンチは大いに盛り上がりましたが、一方で**WormholeとRonin Bridgeの大規模な流出事件**は対照的なイベントとして記憶に新しいでしょう。本レポートでは、その概要を紹介するとともに今後の課題について考察します。

NFTにとって、Yuga LabsによるCryptoPunksとMeebitsの買収は、おそらく今期最大のニュースだったでしょう。BAYCは**APEトークンの壮大なエアドロップ**でこの四半期を終えましたが、おそらく優良なNFTコレクションがその有用性を拡大するにつれて、ファンジブル・トークンを発行するという新しいトレンドの幕開けとなったのでしょうか。最後に、Move-to-EarnゲームもQ1後期にスポットライトを浴び、価格上昇もあってより多くの人々の関心を集めるようになりました。

地政学的、マクロ経済的な不確実性が続いているため、今後さらに波乱の展開が予想されます。同時に、次の強気相場が到来する前に、ノイズを無視してBUIDLに集中する絶好の機会でもあるのです。私たちは引き続き努力を続け、2022年の残りのクリプトに何が待ち受けているのかを楽しみにしています。



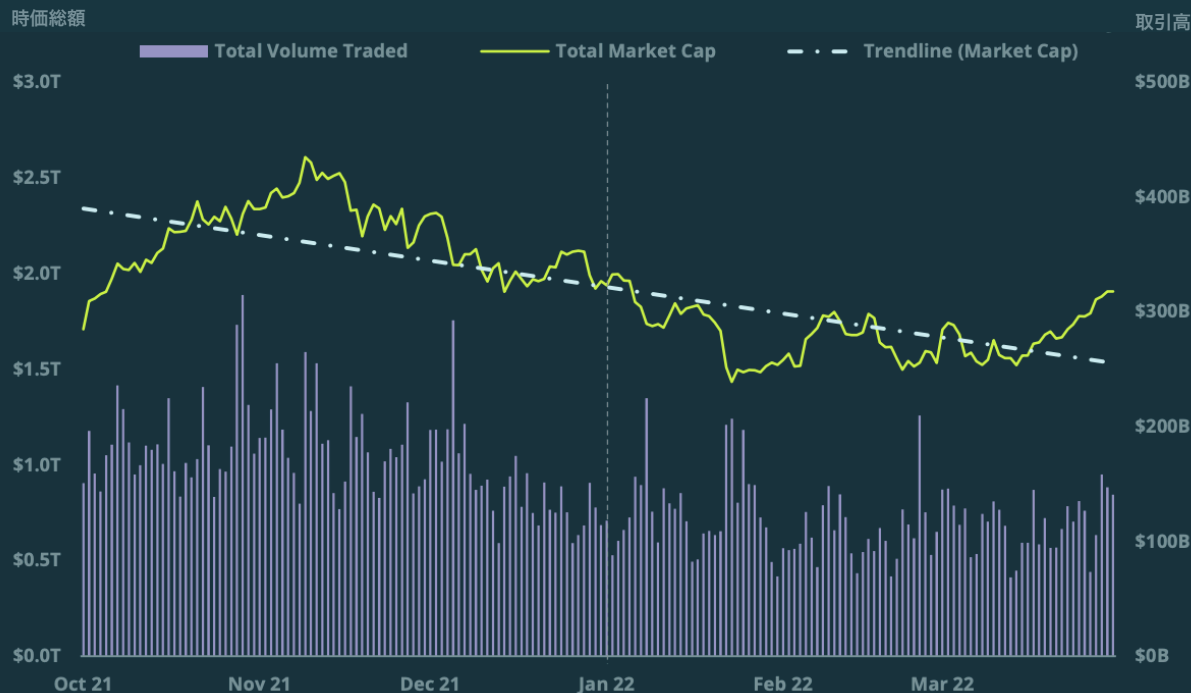
Bobby Ong
COO

TM Lee
CEO

マーケット概観

2022年Q1のクリプト市場は、一旦落ち込んだ後年初の水準まで回復して終了した

トップ30 時価総額・現物取引量 (2021年10月～2022年3月)



-1.6%
 トップ30仮想通貨時価総額
 変動率 2022年Q1

トップ30仮想通貨の時価総額は、2021年11月に史上最高値を記録して以来、下落が続いています。1月23日に底を打つまでに、ピークから**1兆ドル以上縮小しました**。

トップ30の時価総額は1.9兆ドルで、ほぼ年初と同じ水準で四半期を終えました。

トップ30コインの市場シェアは、BTCが47%、ETHが21.4%と、ほぼ同レベルで推移しています。

2022年Q1は、FTM、OKB、UNIがトップ30から脱落し、FTT、ETC、WAVESなどが新しくランクインしました。

現物取引高は2021年5月以降目に見えて縮小していますが、2022年第1四半期を通じて比較的堅調に推移しています。

2022年Q1 トップ5仮想通貨リターン

上位5つの仮想通貨のうち、BTCとXRPだけがQ1をプラスリターンで終えた

トップ5仮想通貨リターン 2022年Q1

価格リターン (%)



-9.1%

トップ5 仮想通貨
平均リターン 2022年Q1


2021年の高揚感と指数関数的上昇とは対照的に、2022年Q1はトップ5暗号通貨はマイナスリターンを出しています。

SOLとBNBは最大の打撃を受けましたが、BTCとXRPは一定の反発を見せました。

トップ10内で最も上昇したのはLUNA(+24.1%)で、現在6位とXRP, Solanaに急接近しています。LUNA, BTC, XRP以外のトップ10は、マイナスでQ1を終えました。

トップ30内では、ETC(+45.7%), FTT(+33.6%), WAVES(+256.1%)などが高い上昇を見せました

 **+1.6%**
+7.6%

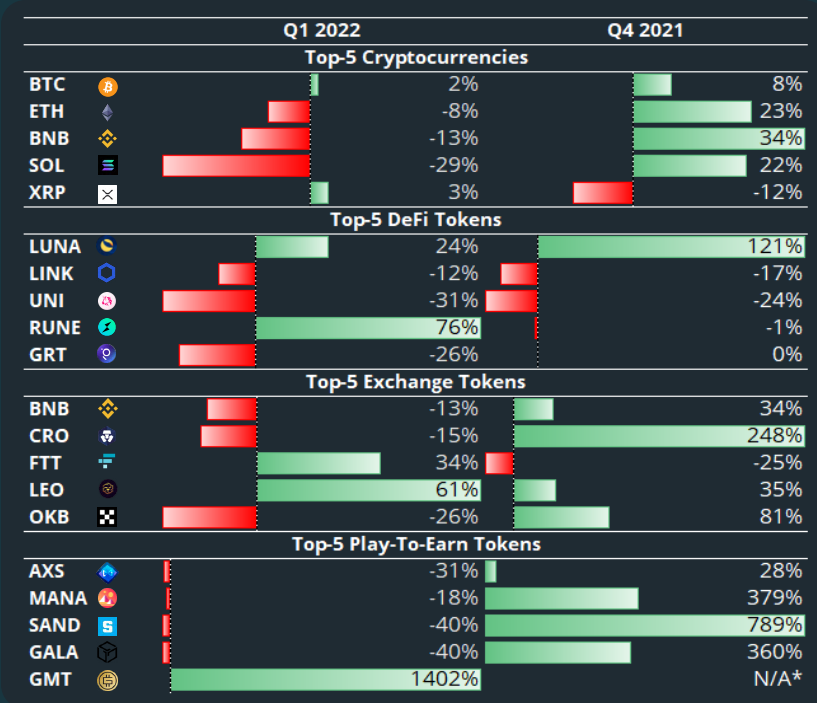
 **-8.2%**
+23.3%

 **-13.5%**
+33.8%

 **-29.1%**
+22.2%

 **+3.5%**
-11.8%

Terra(LUNA)は上昇を続け、一方でMove-to-Earnのナラティブが開花し始める



DeFiトークンが前四半期と同様にアンダーパフォームする中、LUNAは史上最高値を更新することに成功しました。100ドルを突破したLUNAは、2021年Q4の121%の上昇に加え、この四半期に24%の価格上昇を記録しました。

この値動きは、Luna Foundation Guard (LFG) が、TerraのステーブルコインであるUSTのリザーブ資産としてBTCを購入すると発表したことが大きな要因だと考えられます。より多くのBTCを獲得したことで、USTの裏付けがより強固になり、さらなる普及を促し、ひいてはLUNAの需要も増加しました。

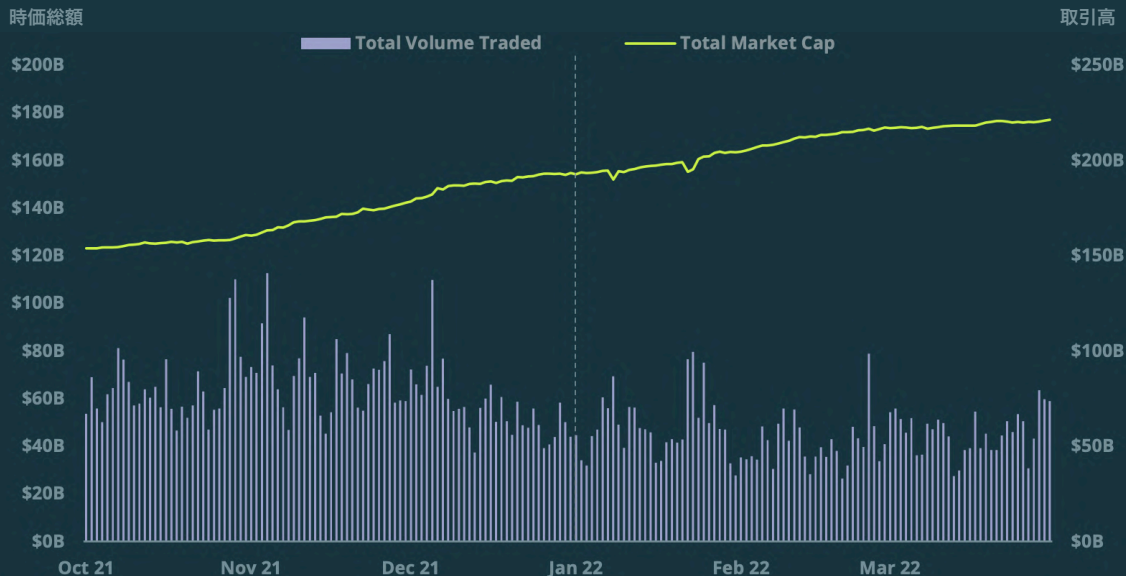
2021年末にかけてほとんどのCEXトークンがプラスに転じる中、FTTは唯一の例外で、25%のドロウダウンに見舞われました。しかしその後、他の上位CEXトークンが失速する中、FTTは34%も反発しました。一方、BitfinexのLEOトークンは、2016年に盗まれた94,000BTCの回収により、Q1にさらに61%上昇し利益を伸ばしました。

2022年、Play-To-Earnの動きは鈍化したように見えますが、新しいトレンドがクリプト業界で火を灯し始めています。それは「Move-To-Earn」です。STEPNはこのコンセプトを取り入れた最初の数少ないゲームの1つで、ユーザーはウォーキングやジョギングでトークンを獲得することができます。

STEPNのガバナンストークンであるGMTは、発売から1ヶ月で140倍と期待を上回る伸びを示しました。STEPNの大成功は、Move-To-Earnの人気の高まりを明確に示し、GenopetsやWirtualなどの類似プロジェクトの牽引しています

市場の弱気病がステーブルコインのさらなる成長を促した

トップ5ステーブルコイン 時価総額・現物取引量 (2021年10月～2022年3月)



+\$23B
 トップ5ステーブルコイン
 時価総額成長 2022年Q1

一般的な仮想通貨市場とは対照的に、トップ5ステーブルコインの時価総額は13%増加しました。上位5位の顔ぶれは年初以来変化していません。

ステーブルコインの市場シェア増加は、地政学的・マクロ経済的な不確実性の中で投資家がリスク回避を選択したことによるものと見られます。

Tetherは、USDC、BUSD、USTと比較して成長が大きく鈍化していますが、依然として首位を維持しています。Daiの成長も同業他社に比べて大きく鈍化しています。

USTは最も強い成長を遂げましたが、最も流通量を伸ばしたのはUSDCでした。(USTの深掘りについては後段を参照)

\$81.9B
 +\$3.53B (+4.5%)

\$52.1B
 +\$9.92B (+23.5%)

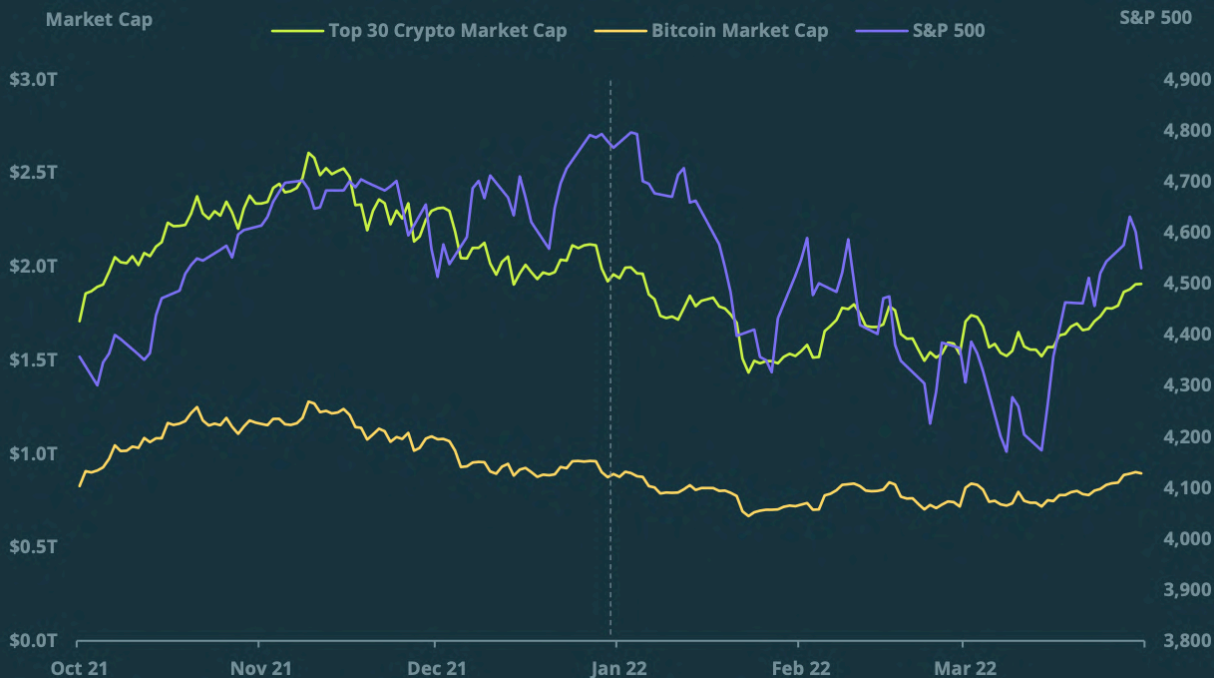
\$17.5B
 +\$3.01B (+20.8%)

\$16.4B
 +\$6.22B (+61.4%)

\$9.2B
 +\$0.28B (+3.1%)

クリプトと株式の高い相関関係

時価総額：トップ30仮想通貨 vs ビットコイン vs S&P500 (2021年10月～2022年3月)



2022年Q1、仮想通貨市場の時価総額トップ30とS&P500は0.72という高い相関を示しました。これは、2021年第4四半期の0.30という低い相関とは対照的でした。

CoinMetricsのデータによると、ビットコインとS&P500の相関は2022年3月31日に最高値の0.56に達し、中程度の相関があることが示されました。これにより、ビットコインの安全資産としての「デジタルゴールド」のナラティブに関する議論に火がつけました。

ビットコインの伝統的な金融市場との相関上昇は、パンデミック以降増加し始め、20-21年の強気相場の中でメインストリームからの注目が高まったことが要因かもしれません。新しい投資家は、暗号資産クラスが成長株と同様にリスクが高いものだと考えている可能性が高いでしょう。

トップ30の暗号通貨の時価総額もビットコインと同じ動きをし、2022年Q1の相関は0.96と、2021年Q4の0.92から上昇しています。

クリプトにとって重要なイベントで充実していたQ1



ビットコイン分析

横這いなビットコイン

ビットコイン 価格 及び 現物取引高 (2021年10月~2022年3月)



+1.6%

BTC 価格リターン 2022年Q1

2022年Q1のビットコインの値動きは、どちらかといえば穏やかなものでした。BTCは36kドルから45kドルのレンジで推移し、四半期末を1.6%のリターンで終わりました。

BTCは一時35,180ドルと年初来安値を更新しましたが、その後反発し36,000ドル台に回復しました

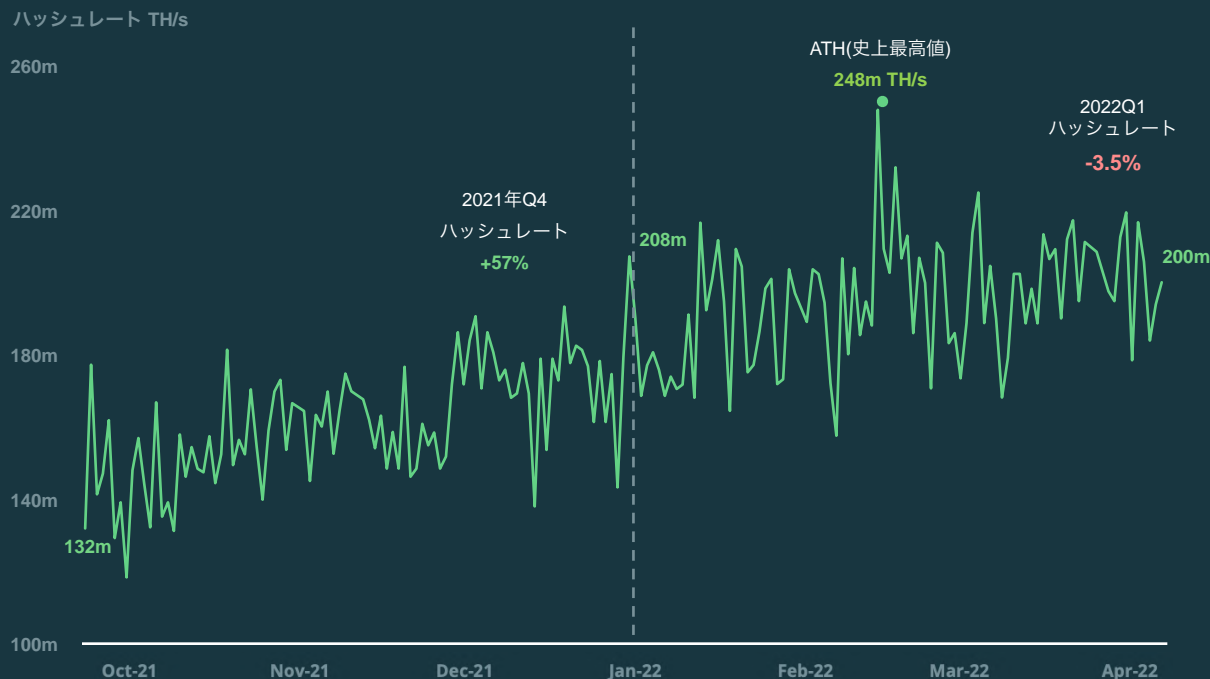
22年Q1にBTCに影響を与えた事象:

- **ウクライナでの戦争**はBTCを暴落させた
- **エルサルバドル** はビットコイン債券の発売を延期10/2/2025
- **MicroStrategy** はローンで調達した資金でビットコインを追加購入
- **LFG財団** はBTC購入を実行。BTCはTerra USD(UST)のリザーブとして用いられる。
- **FED**は金利上昇を発表

ビットコインマイニングハッシュレート

ビットコインのハッシュレートが上昇傾向、248mTH/sのAll Time High(ATH)を達成

ビットコイン 合計ハッシュレート (2021年10月~2022年3月)



-3.5%

ビットコインハッシュレート
変動率 2022年Q1

ビットコインの総ハッシュ数は1.6億TH/Sから2.2億TH/Sの間で変動しましたが、価格の下落や地政学的な不確実性にもかかわらず、全体として上昇傾向にあります。2月12日には**史上最高値の2.48億TH/s**を記録しました。

全体のハッシュレートは年初に比べ**3.5%減**の2億TH/sとなりましたが、**2021年12月のATH (1.82億TH/s)**を上回り、ネットワークの回復力を証明するものとなりました。

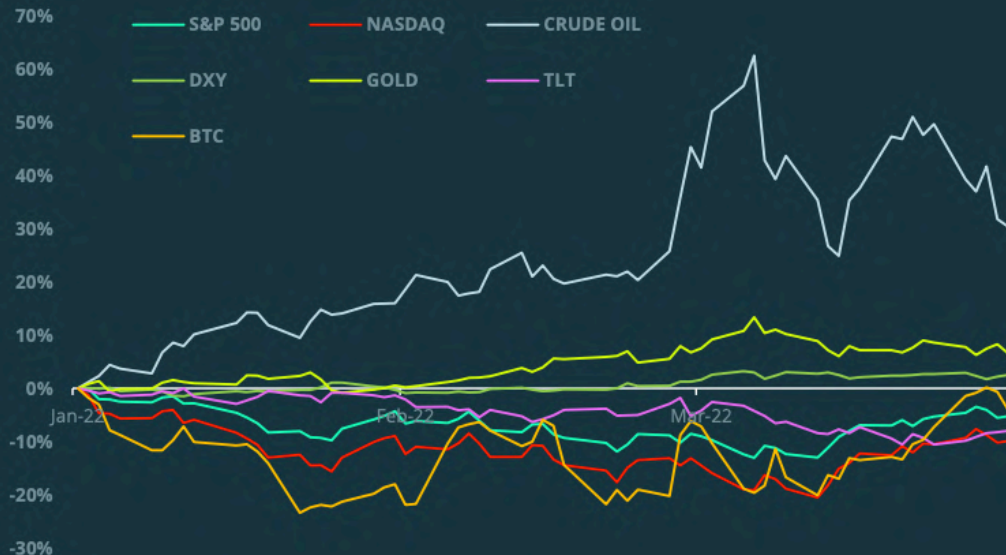
昨年ビットコイン採掘量第2位だった**カザフスタン**は、1月に一部地方でインターネット停止を経験し、かつマイニング税を10倍に引き上げることをもくろんでいる。**コソボ**や**ジョージア**などの国も、エネルギー危機と戦うために**クリプトマイニングを停止**しています。**EU**では最近、**ビットコインマイニング**に対する**禁止令**が**否決**されました。

価格リターン：ビットコイン vs 主要アセット

投資家がコモディティに移動したため、ゴールドはビットコインをアウトパフォーマンスした

価格リターン：ビットコイン vs 主要アセット 2022年Q1

価格リターン



	Q1 2022 Return	Q1 2021 Return
BTC	1.6%	103%
CRUDE OIL	32%	29%
S&P 500	-6%	9%
NASDAQ	-10%	6%
DXY (US Dollar Index)	2%	3%
GOLD	8%	-11%
TLT (Treasury Bonds)	-8%	-13%

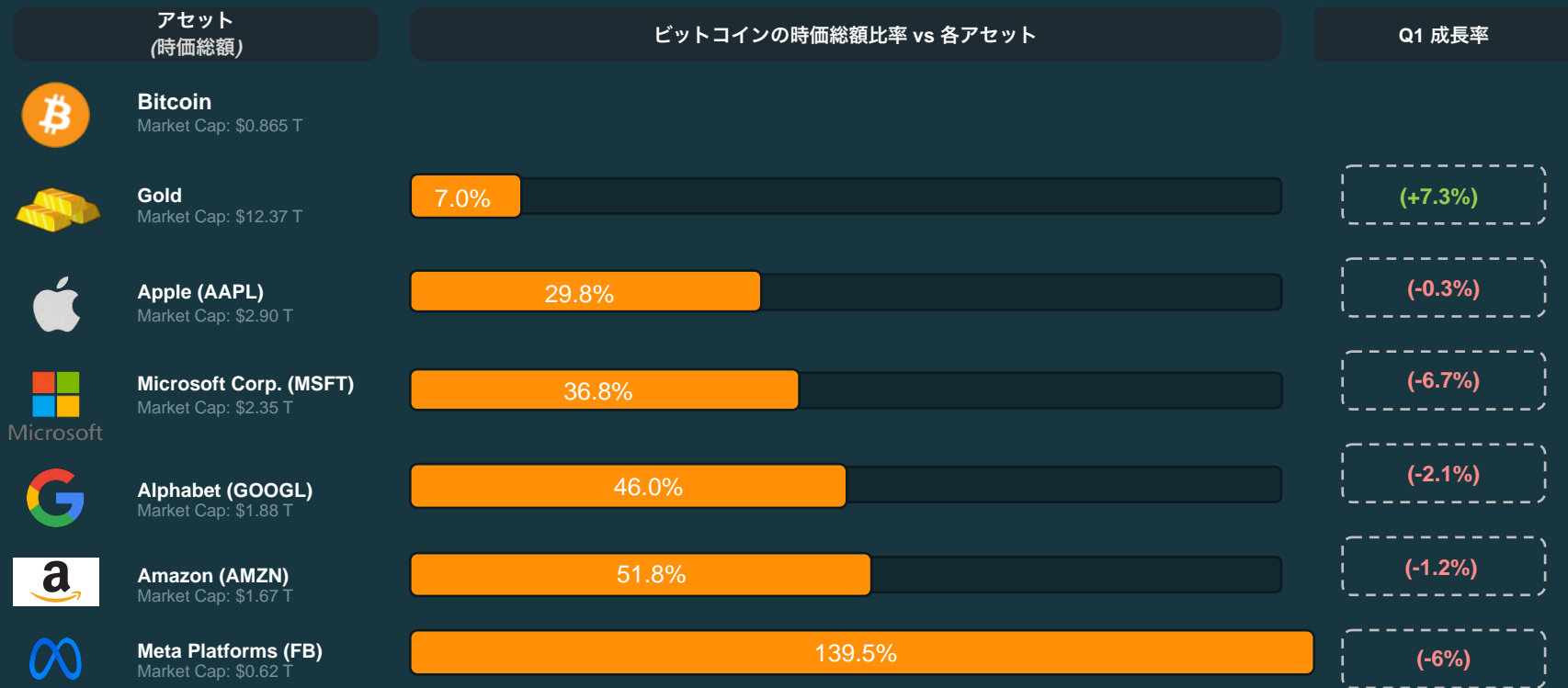
四半期末にかけて大幅な上昇を記録した金や原油に比べ、ビットコインはわずか1.6%増と、やや停滞した状態が続いています。これは、ウクライナの戦争が投資家にコモディティへの逃避を促したことが要因です。

その他の資産クラス、S&P500、NASDAQ、DXY、TLTは、2022年Q1にほぼ横ばいか、マイナスに終わった。

戦争開始時は下落したものの、その後、ビットコインは反発した。これは、米国株の動きと一致していた。

時価総額: ビットコイン vs. 金 vs. S&P 500 トップ5株式

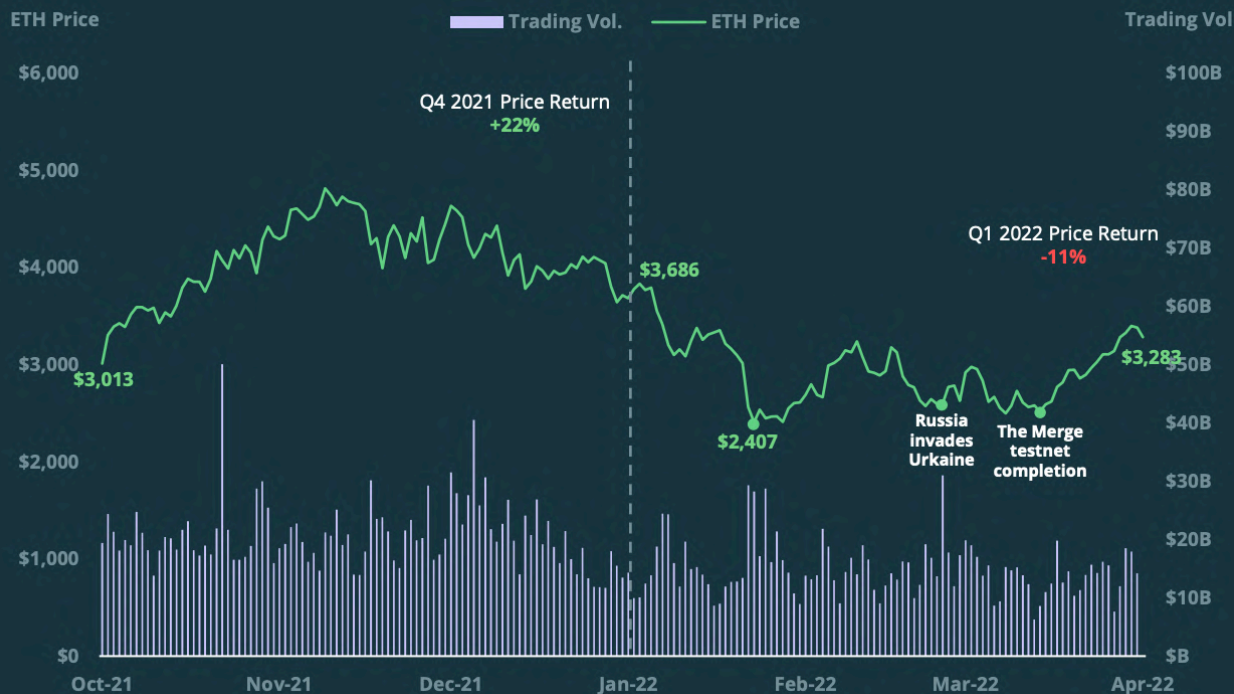
ビットコインの時価総額がMeta (Facebook) を超えた



イーサリアム分析

ETHは年初来安値まで急落した後、反発して第1四半期を3,000ドル超で終えた。

イーサリアム 価格 及び 現物取引高 (2021年10月~2022年3月)



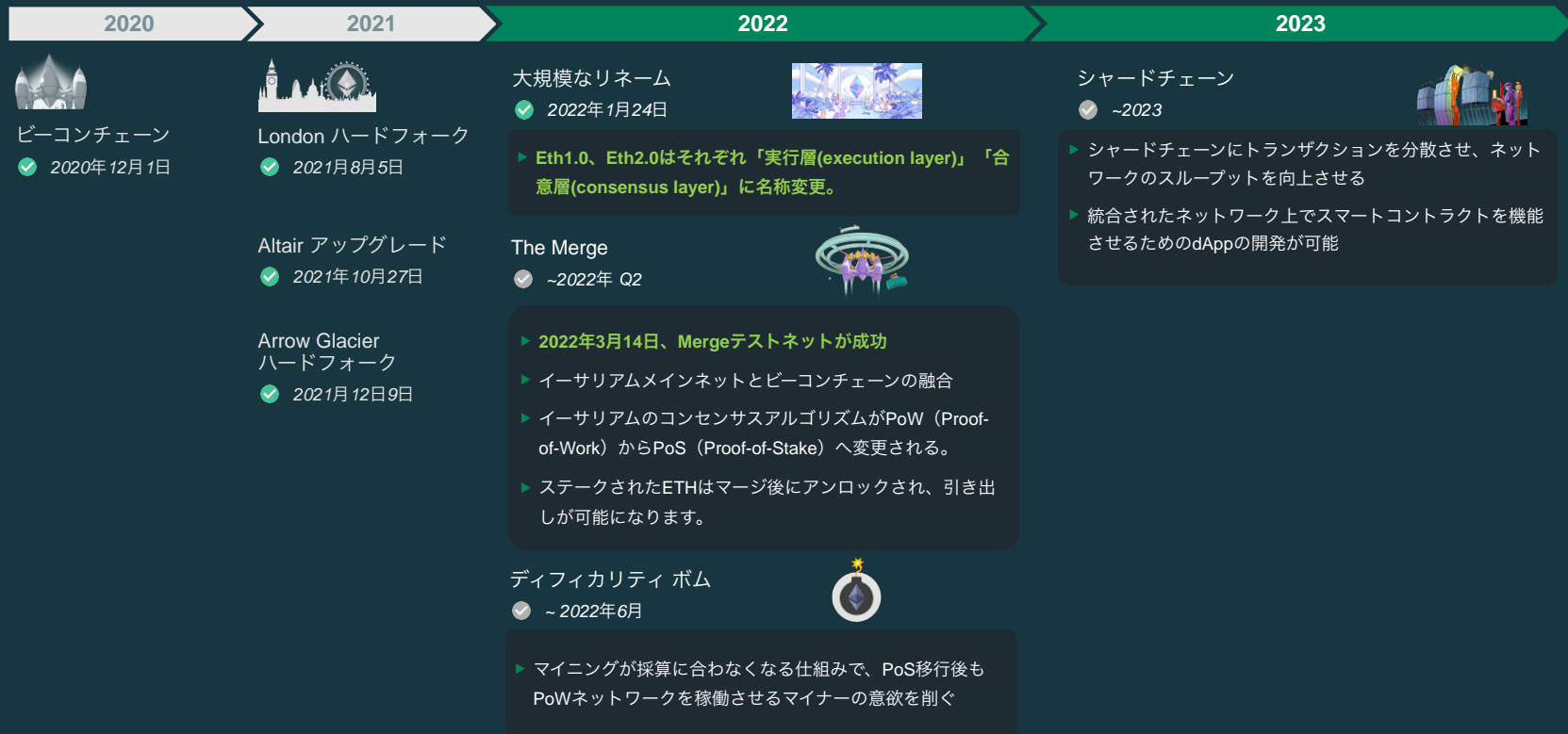
-10.9%
ETH 価格リターン 2022年Q1

ETH価格は前年からの下落の勢いが続き、マクロ経済への懸念から35%以上下落し、2,407ドルの安値を記録しました。しかし、最近の復活により、ETH価格は3,283ドルまで上昇し、四半期を終えました。

1月下旬の下落局面では、トレーダーがポジションを解消するために殺到し、取引高は28~290億ドルに急増しました。2月24日のロシアのウクライナ侵攻の後にも取引高は300億ドルまで急増しました。

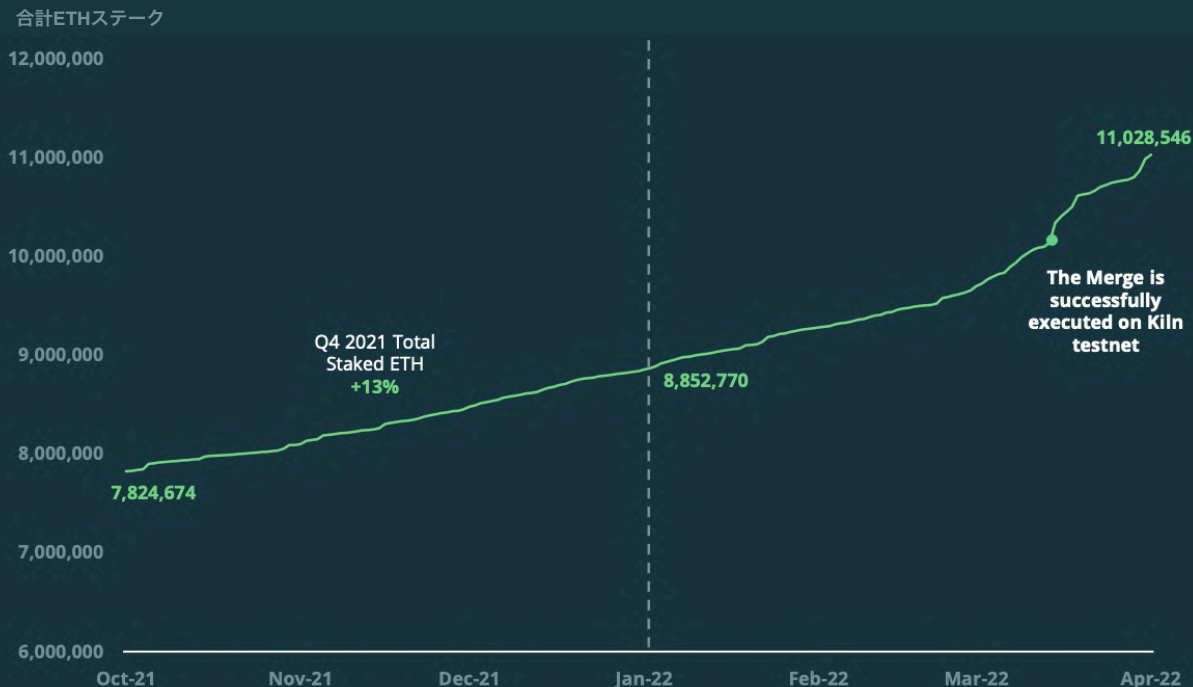
- 注目イベント:
- ▶ 3月14日 - **The Merge** が **Kilnテストネット** で成功し、3月中旬の上昇を後押しした。
 - ▶ 3月18日 - 新しく提案された債権トークン/Vaultを標準化するイーサリアムトークン規格**ERC-4626**が**具体化**される。

Eth2.0を「Consensus Layer」に改称し、テストネットでマージを完了



The Mergeのテスト成功でETHのステーキングが急増、KrakenとLIDOがステーキングサービスをリード

イーサリアムコンセンサスレイヤーへの累積ETHステーキング (2021年10月~2022年3月)



+25%

合計ETHステーキング 2022年Q1

同期間にETH価格が下落したものの、コンセンサスレイヤーの合計ETHステーキング量は、2022年第1四半期に強い上昇モメンタム(+25%)を示しました。

3月14日のKilnテストネットマージ成功により、ETHステーキングが急増しました。

22年Q1末までに1100万ステイクされたETHは、ETHの総供給量の9%に相当します。

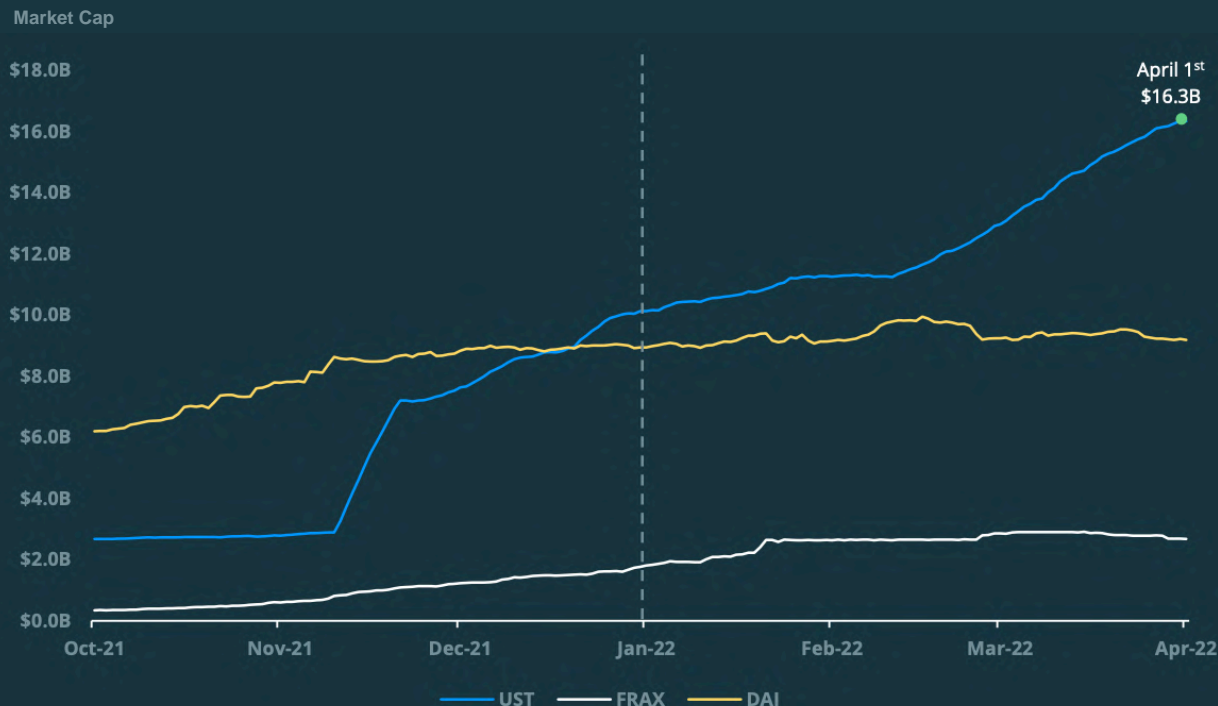
Kraken (9.4%) と **Lido** (8.8%) は、バリデータ数でトップ2のETHステーキング・サービスであり、合計約 **18%** のシェアで他社を大きく引き離しています。

Mergeは、1日のETH発行量を12,000ETHから1,280ETHに減らすと試算しており、これはビットコイン換算で3倍のHalvingに相当する90%の削減となります。

USTの台頭

UST は最大の分散型ステーブルコインの地位を守り続けた

トップ3 分散型ステーブルコイン時価総額 (2021年10月～2022年3月)



+61%

UST時価総額成長
2022年Q1

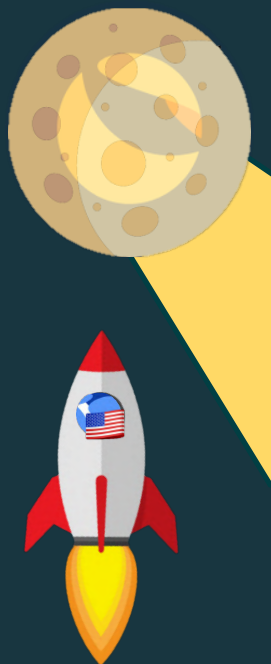
12月にDAIを抜いて第4位のステーブルコインの座を獲得して以来、Terra USD (UST) は **圧倒的な分散型ステーブルコイン**として勢いを伸ばし続けています。

2022年Q1、USTの時価総額は**61%増加**し、163億ドルに達しました。一方、DAIの時価総額は**3%増**とわずかなものでした。

分散型ステーブルコインに注目が集まっており、FRAXはこの恩恵を受けているように見えます。この部分担保型ステーブルコインは、2022年Q1に時価総額が**49%増加**し、27億ドルに達しました。

なぜUSTは爆発的に成長しているのか

USTは急成長しているが、その持続性には疑問がある



1

Anchorは、ユーザーがUSTを貸し借りできるTerra上のレンディングプラットフォームです。USTが広く普及した主な理由は、**Anchorの20%という高かつ保証付きの貸出金利**にある。2022年4月1日現在、Anchorだけで\$120B相当のUSTが預け入れされています。

2

Terraは、**USTをSolana、Avalanche、Polygonといった他のチェーンにも展開しており**、DeFiネイティブなパートナーシップ/コラボレーションを通じて、USTを展開しています。

3

Terraエコシステムが拡大しており、その経済圏全体が主要な価値交換媒体としてUSTを使っています。四半期末時点でネットワークには\$32B TVLがあり、2021年Q4から51.6%の増加を示しています。最近大きな関心を集めている他のプロトコルには、Astroport (DEX)、Mars (借入/貸付)、Prism (トークン化された利回り) などがありません。

しかし、懐疑派もいる...

USTの持続性については、アダプションでも機能面でも否定的な意見が多い。CTの著名なクジラ2人が、Do Kwon (Terraの創業者) に対して、LUNAの価格が2023年3月13日までに88ドルを下回るという賭けをしたほどだ。多くの人は、そのアダプションはAnchorによってのみ膨らんでおり、その持続不可能な利回り減少に際して急降下すると考えています。機能面では、USTがLUNAを通じてペグを維持していることに対する批判がある。

Do Kwon



\$11M

Algod



\$1M

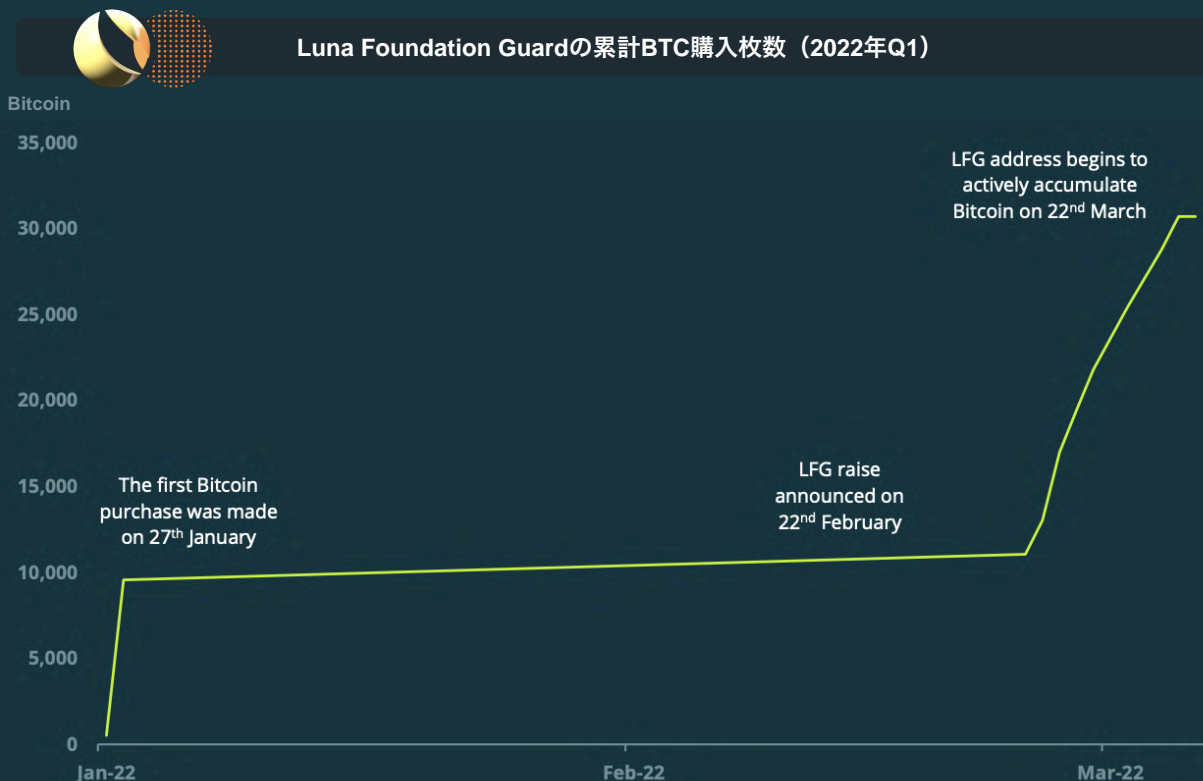
GCR



\$10M

vs

LFGは、ハイリスクな状況下におけるUSTペグを強化するために、BTCの購入を開始した



30,727

LFG保有のBTC

The Luna Foundation Guard (LFG) は、Tesla、Microstrategyに次ぐ、BTCの最大保有者となった。

Terraのエコシステムの成長を支援するために設立されたNPOです。個人投資家へのLUNA売却により、10億ドルを調達しました。

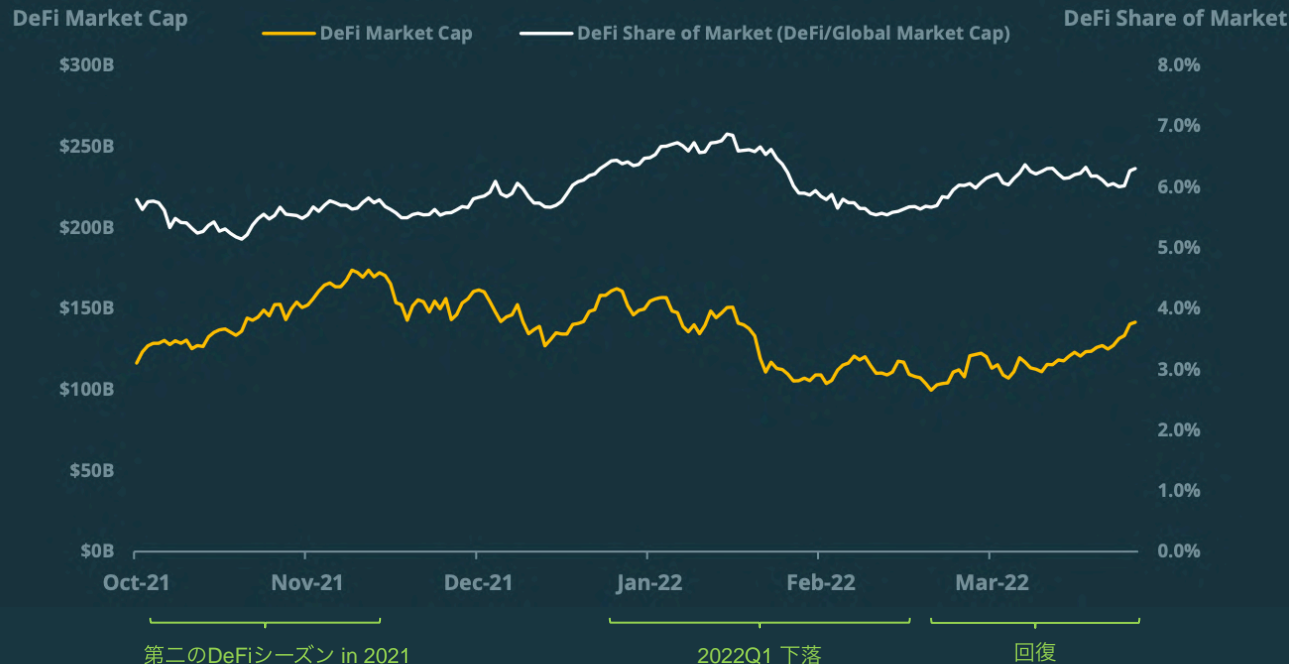
売却益は、ビットコインによるUSTリザーブを作成するためのBTC購入に充てられます。この準備金は、市場にショックが起きた際にUSTのペグを維持するために使用されます。

その後、財団は準備金を30億ドルに増やし、それを使って徐々にBTCを購入する予定です

DEFI分析

このような不透明な状況下でも、DeFiは比較的堅調に推移

DeFiの時価総額と市場全体におけるDeFiのシェア (2021年10月～2022年3月)



-5.4%

2022年年初と比較した
DeFi時価総額の減少

2022年Q1末のDeFiの時価総額は、1500億ドルから1410億ドルへと若干減少した。これは、2021年Q4の暴騰前、昨年10月中旬に見られた水準です。

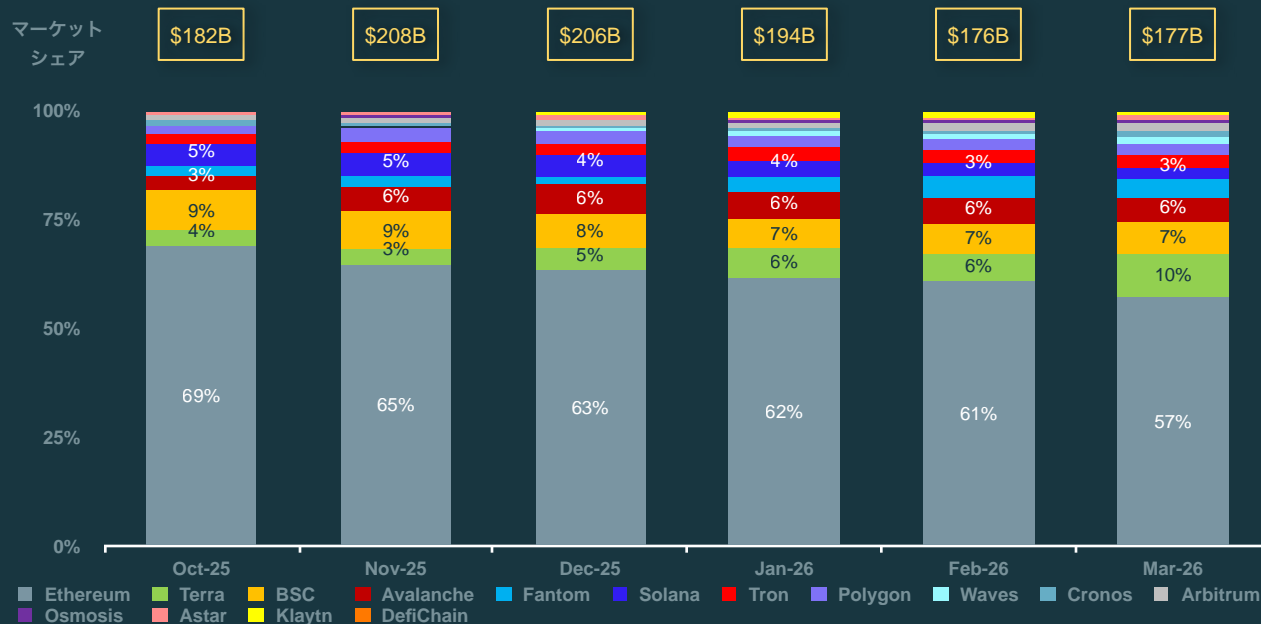
2021年末には29%増の1500億ドルとなった前四半期と比較すると、対照的です。

しかし、市場全体の時価総額は3%程度縮小しましたが、DeFiの市場シェアは6.3%とほぼ横ばいでした。

2022年Q1、DeFiの最大の勝者には、マルチチェーンブリッジや分散型の無期限先物取引所が含まれます。一方、Olympus DAOやそのフォークなどのリバーストークンは、かつての栄光を失ってしまったようです。

アルトチェーンはTerraがリードし、その勢いを増し続けている

マルチチェーンTVL(合計ロック資産価値)の内訳 (2021年10月~2022年3月)



-14.1%

2022年1月1日以降の「マルチチェーンDeFi TVL」の減少

22年に入り、アルトチェーンのTVLはイーサリアムのドミナンスを侵食し続けています。合計TVLは9%減少して1770億ドルになっていますが、イーサリアムのシェアは2021年12月の61%から54%に低下しています。

EVMチェーンとしてはBSCが依然優勢ですが、サブネットのリリースが迫っていることや、先日のカンファレンスの影響もあり、Avalancheも強い競争力を示しています。

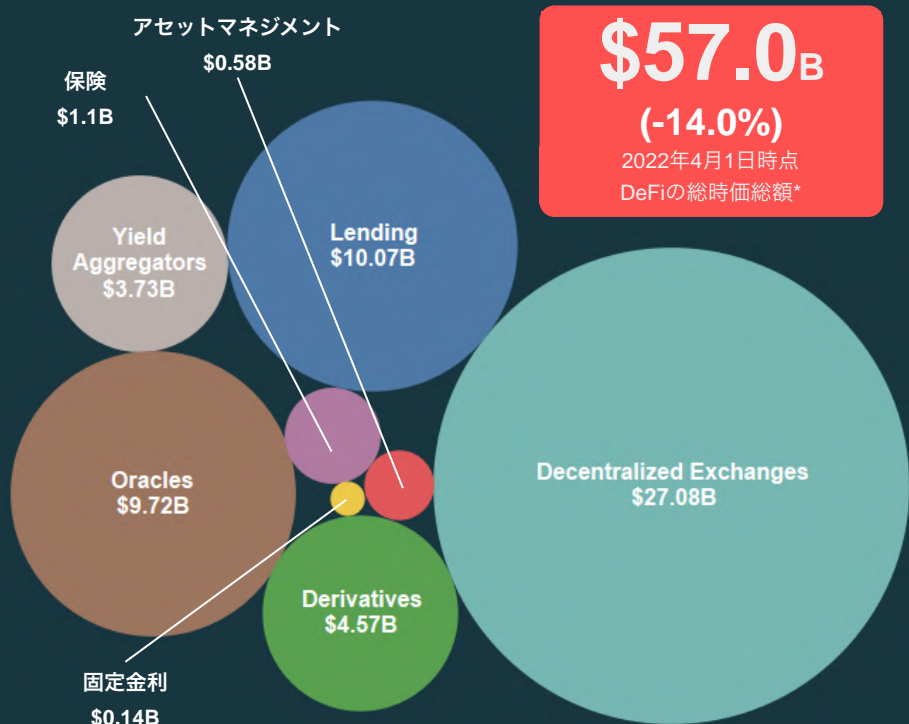
他のEVMチェーンは、Andre Cronjeが去ったにもかかわらず、Fantomでさえも市場シェアを維持しているようです。

2021年の主役の一人であるTerraは、2022年に入ってもその勢いを失わず、TVL全体に占めるシェアは10%に上昇しました。一方、Solanaは減少気味です。

DefiChainのTVLは、ビットコインDeFiが普及し始めたこともあり、順調に伸びて10億ドルを超えています。

DeFiのコア領域が縮小気味みで推移する中、よりニッチなプロダクトが開花しつつある

DeFiの各カテゴリーの時価総額 (2022年Q1)



Weightage (By 2022 Q1 Market Cap Share)	Sector	QoQ % Change
	Total DeFi Market Cap	-14.0%
47.5%	Decentralized Exchanges	-17.3%
17.0%	Oracles	-13.3%
17.7%	Lending	-12.5%
8.0%	Derivatives	13.1%
6.6%	Yield Aggregators	-24.9%
1.9%	Insurance	-19.1%
1.0%	Asset Management	100.0%
0.3%	Fixed Interest	-14.5%

2022年Q1、DEX、オラクル、レンディングプラットフォームは引き続きDeFiを支配していますが、各領域は最大17%の時価総額減少を経験しています。これら3つの合計は現在、DeFiの時価総額の80%以上を占めています。

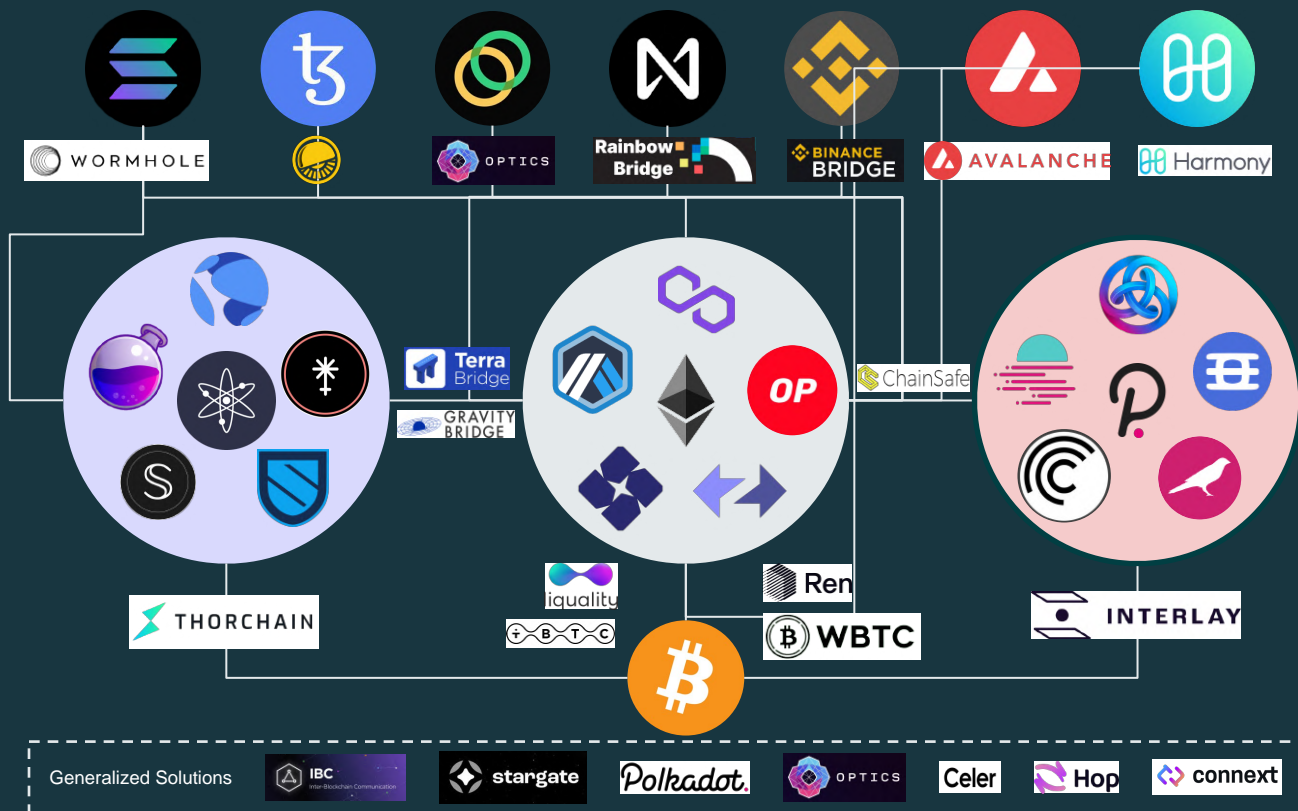
イールドアグリゲーターは確かに2021年の最大のヒットプロダクトの一つでしたが、2022年はかなり険しいスタートを切っています。2022年Q1に最も損失を受けたのはイールド・アグリゲーター領域で、25%の減少、つまり約12億ドルの時価総額が失われました。

しかし、DeFiのより新しいニッチ分野では、大きな改善が見られました。デリバティブとアセットマネジメントの両プロトコルは時価総額が増加し、後者は前四半期に比べて時価総額が倍増しましたが、その市場シェアは依然として小さいままです。GMXとTensetがそれぞれ各分野で最も大きな上昇率を記録しました。

クロスチェーンブリッジ

クロスチェーンブリッジ概観

クロスチェーンブリッジは、DeFi TVLがアルトチェーンに移行していく過程で出現した。



2021年1月の98%から2022年3月の58%まで、DeFi TVLに対するイーサリアムのシェアは、複数のアルトチェーンで非常に急速に希薄化しました。

このTVLの断片化は、アルトチェーン間でのDeFiプロトコルの台頭と重なり、異なるチェーン間で資産を移動させたいというユーザーからの要望を後押ししています。

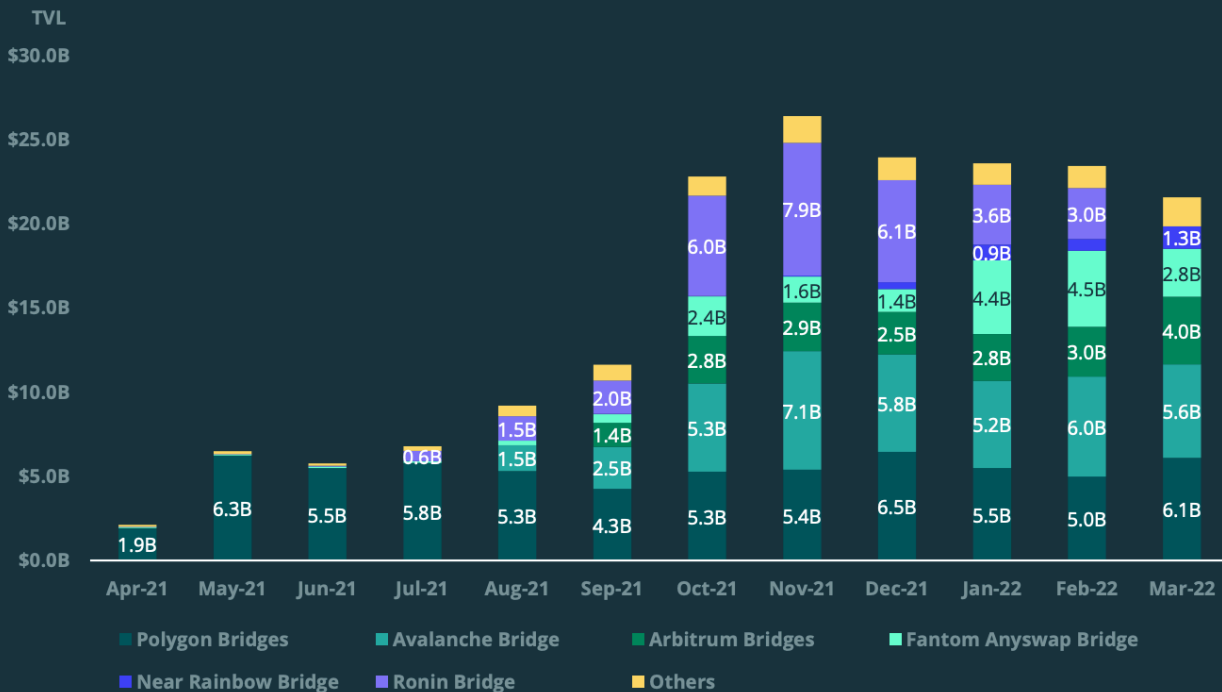
多くのクリプト・ユーザーがBinanceやFTXなどのCEXを利用して資産をクロスチェーンで移動させていると思われるが、この需要に応えるために分散型クロスチェーンブリッジも登場しています。

初期のブリッジは、AvalancheブリッジやBinanceブリッジなど特定のチェーン間のブリッジから始まりましたが、より一般化したソリューションも登場し、Thorchain、Stargate、Connextなどがあります。

Source: 1kx Network, Daniel Berenzon

TVLは大きく成長したが、大きなハッキングも伴っている

イーサリアムブリッジのTVL (2021年4月 - 2022年3月)



\$21.6B

イーサリアムブリッジ上の
合計TVL

イーサリアムブリッジだけを調べてみても、TVLは2021年4月に2.1Bから2022年3月に21.6Bとおおよそ10倍に成長しています。

しかし、成長痛もあり（これまで2022年だけで10億ドル以上）、分散型ブリッジがハッキングに悩まされています。

顕著な事例：

1. Ronin Bridge : \$600M
2. Wormhole : \$325M
3. Meter.io : \$4.3M
4. Multichain : \$1.9M

それに伴い、より高いセキュリティを約束する新しいブリッジアーキテクチャも登場しています。

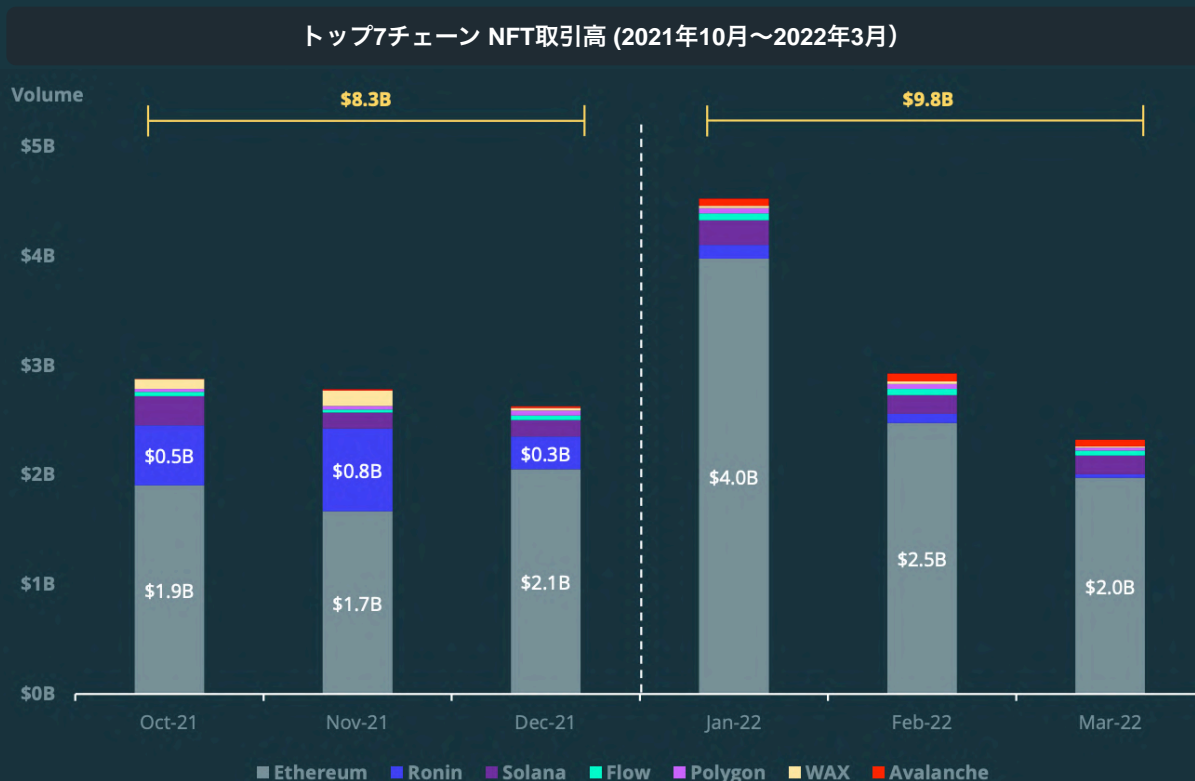
既存の「バリデータ」モデルよりも高い安全性を期待できる仕組みが登場している

メカニズム	例	具体的な仕組み	リスク / 課題
外部バリデータ & フェデレーション	WORMHOLE THORCHAIN Ronin Multichain PolyNetwork	<ul style="list-style-type: none"> DEXのような機能で、資産の送り元・送り先チェーン両方に流動性プールが存在する。 送ったトークンを送り先チェーンで発行する前に、トークンがプールにロックされたことの確認を、ボンディング・バリデータに依存する(ロック-ミント-バーン-リディーム)。 各流動性プールのカウンターパーティとして一般的に使用される合成/仲介トークンは、wormholeトークンやRUNEなど。 	<ul style="list-style-type: none"> 発行されるIOUトークンが価値を維持するためには、プールにロックされた合成/仲介トークンの十分な流動性が必要 ThorchainのRe-orgにより、ブリッジにロックインされているトークンが無効となるリスク。 潜在的なリワードがペナルティを上回った場合、バリデータが悪意ある攻撃を決定するリスク
ライトクライアント & リレー	stargate IBC Polkadot. Rainbow Bridge	<ul style="list-style-type: none"> 複数チェーンにトークンのプール（流動性プールではない）を持つチェーン間通信レイヤー。合成/仲介トークンを使用する必要はない。 複数の仲介者（オラクルとリレイヤーのセット）を利用して、送り元チェーン上のアクティビティを監視し（ユーザーはブリッジにトークンを預けたなど）、ブロックヘッダの証明を通じてこれらのアクションを送り先チェーン上のライトクライアントに伝え、さらなるアクション（ユーザーがブリッジからトークンを引き出すことを許可する）を求めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅い: オラクルがファイナリティを待つ必要があるため、送金に時間がかかる。 送信元/送信先チェーン毎にクライアント、オラクル、リレイヤーがデプロイされている必要がある。 オラクルとリレイヤーの共謀による攻撃リスク。
流動性 ネットワーク	connext Hop Celer liquidity	<ul style="list-style-type: none"> ルーターと呼ばれるノードのオフチェーン、ピアツーピアのネットワークで、送り元と送り先の両方のチェーンのトークンのインベントリを保持する。 ユーザーはルーターに対して、送り元チェーンのトークンを送り先チェーンのトークンに売却するという取引を行い、ロック及びディスピュートメカニズムを通じて、ルーターがトークンを持ち逃げできないようにする。 ユーザーとルーターは、チェーン上で取引を確認するだけでよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ブリッジされるトークンの流動性を十分に持つルーター・ネットワークの有無が重要 資産のブリッジにのみ有効であり、クロスチェーンメッセージの送信やコントラクトコールなど、他のクロスチェーンのインタラクションを扱うようには設計されていない。

NFTs

トップ7チェーンの取引高

NFT Summerは、2022年1月に若干の復活を見せたが、徐々に先細りになっていった



17.9%
2021年Q4から2022年Q1にかけて取引高が増加

2022年1月、市場の大規模な調整と重なって、NFTへの関心は急上昇しました。これは、NFTがネイティブネットワークトークンで価格設定されており、米ドルベースで安くなったためと思われます。

もう一つの理由は、人々が下落基調な一般的市场に退屈し、NFTに時間と関心を向けたためと考えられます。Q1後半に相場が上昇すると、それに伴い出来高も減少した。

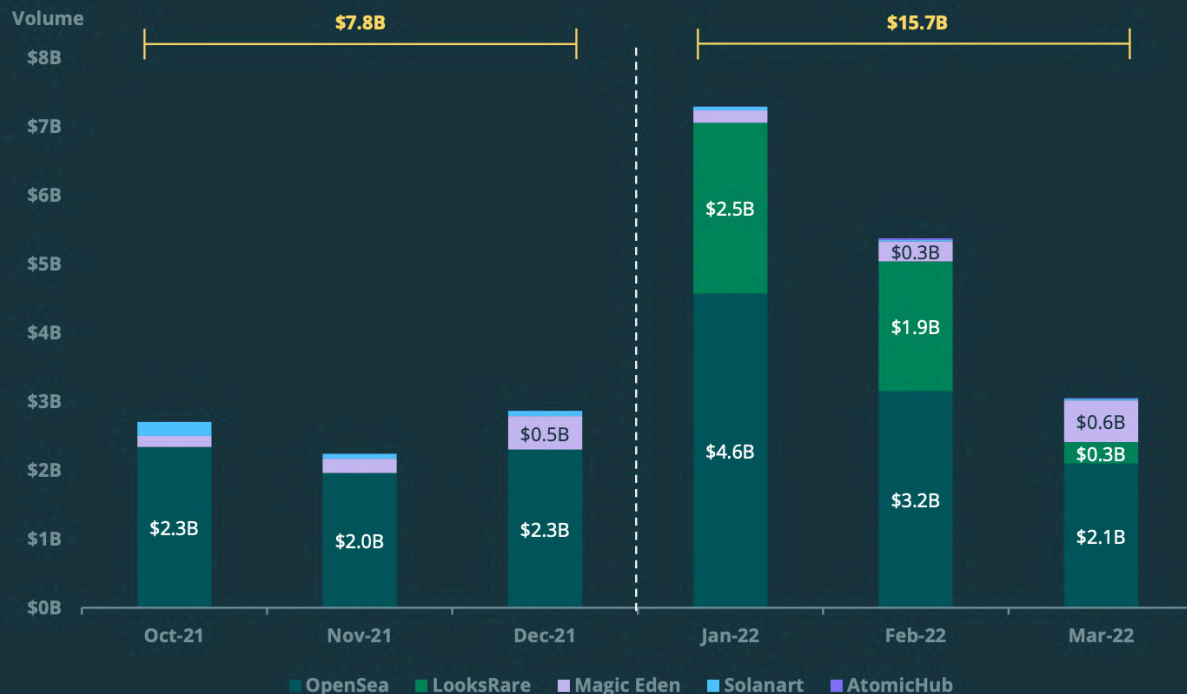
当然のことながら、イーサリアムは3月末時点で85%のシェアを占め、依然として支配的なチェーンとなっています。

Avalancheは四半期で最大のボリューム増加(6,610.6%)を記録し、Roninは最大の損失(94.2%)を被った。

NFTプラットフォーム取引高

OpenSeaは、競争が激化しているにもかかわらず、依然としてトップの座を維持している

一般的なNFTマーケットプレイス トップ5 (2021年10月～2022年3月)



101.3%

2021年Q4から2022年Q1にかけての取引高増加率

2022年1月、新たな競合であるLooksRareが、OpenSeaのユーザーへの\$LOOKSエアドロップによって俗にいうヴァンパイア・アタックを実行し、OpenSeaのシェアが一時的に危ぶまれました。その月末までに、LooksRareの取引高はOpenSeaの約半分にまで到達しました。

しかし、ほとんどのトレーダーは、買い手と売り手に\$LOOKSを与えるLooksRareのインセンティブ・プログラム目的で利用していただけであったため、その人気は短命に終わりました。Q1の終わりには、OpenSeaの約1/7の規模まで縮小しました。

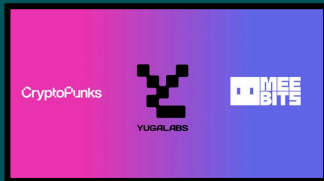
激しい競争の末、Magic EdenはSolanaartを抜いてSolana NFTマーケットの覇者となりました。OpenSeaは2022年4月にSolana NFTを統合する予定なので、これが続くかどうかは時間が解決してくれるでしょう。

Source: Dapp Radar and [r@chen8 from Dune Analytics](#)

*OpenSea volumes includes Ethereum and Polygon

**A different data source is used for this slide compared to the previous slide

Bored Ape Yacht Clubは、紛れもなくこのスペースのトレンドメイカーだ



2021年12月にNIKEによるRTKFT買収は、**ブランドとしてのNFTのコアバリューが認められたイベント**として印象的でした。しかし、NIKEは伝統的な企業であり、ネイティブなWeb3 NFTベースのコミュニティとは全く異なります。Bored Ape Yacht Club (BAYC) の創設者であるYuga Labsは、CryptoPunksとMeebitsの商業およびライセンス権を取得するなど、**買収を通じてNFTプロジェクトがそのブランドとユーティリティを拡大する**という前例のない戦略を見せました。注目すべきは、買収から数週間後、Yuga Labsは\$4Bの評価額で\$450Mを資金調達するに至ったことです。**今後、NFT関連のM&Aが増加することが期待されます。**



この数ヶ月の間に、人々の期待値は増すばかりです。JPEGだけではもはや十分ではなく、**所有者はユーティリティの追加とトークンのエアドロップを期待しています**。他多くのプロジェクトがこのことを認識しているように、BAYCも2021年10月の時点で\$APEトークンのローンチを予告していました。そして2022年3月、ついに\$APEトークンがBAYCとMAYCの全保有者にエアドロップされました。トークンの実用性の詳細はまだ明らかにされていませんが、Yuga Labsは、今後登場予定のゲーミング・メタバースOthersideに不可欠なものになると述べています。



独自のマーケットプレイスを持つコレクターズアイテムは、CryptoPunks以外にはほとんどないのです。通常、Aavegotchi、Axie Infinity、TreasureDAOのように独自のプラットフォームを構築しているのはGameFi NFTアセットです。しかし、Solana Monkey businessやTaiyo Roboticsなど、**アセットに特化したNFTマーケットプレイス**の例も増えてきています。また、Yuga Labsが独自のマーケットプレイスを構築するとの憶測もあり、これらはすべて\$APEで取引される予定です。

取引所

2022年Q1 トップ10仮想通貨取引所

2022年Q1の現物取引総額は月平均\$1.26Tと一転して減少した

トップ10仮想通貨取引所 (DEX + CEX) 取引高 (2021年10月～2022年3月)



-37.8%

トップ10(DEX+CEX)の取引高減少
2021年Q4から2022年Q1

全体として、CEXおよびDEX上位10つの取引所の2022年Q1の現物取引高は、2021年Q4と比較して6兆800億ドルから3兆7900億ドルに減少しました。

取引高は2021年11月をピークに減少を続け、2022年3月には市場の回復に伴い若干のリバウンドがあった。

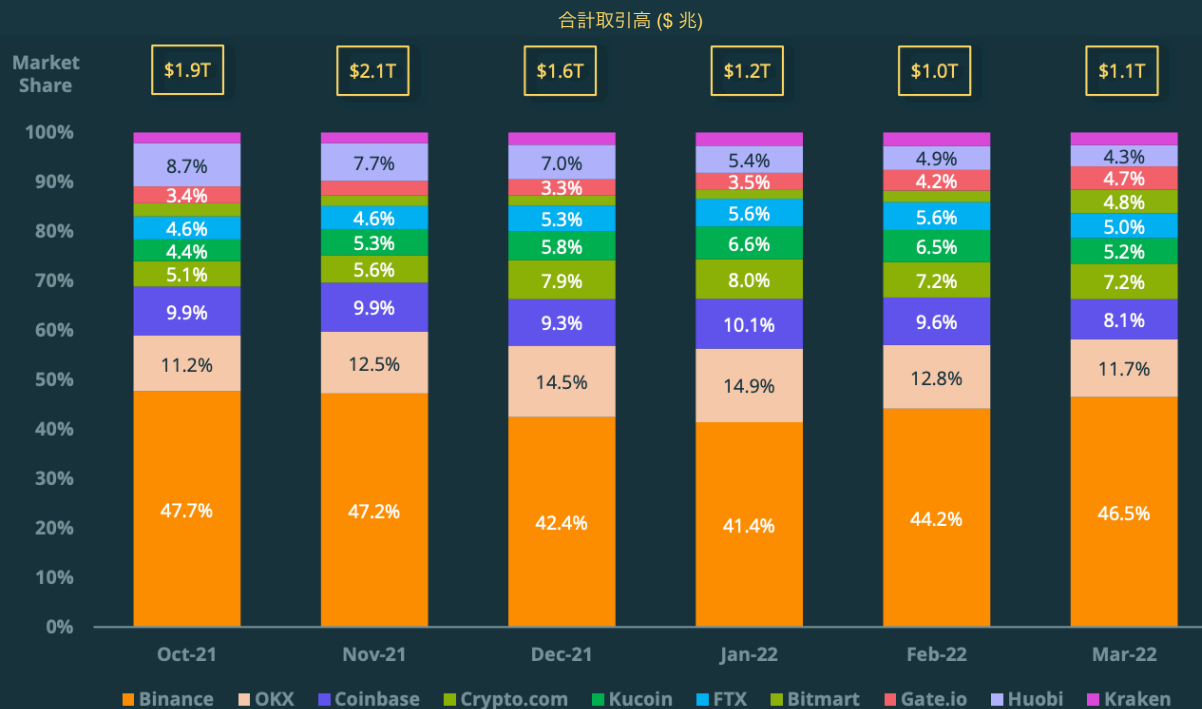
2月の取引高は1.1Tドルで、2021年のどの月よりも低い数字となりました。

DEX：CEX比率は2021年12月の11.8%から2022年3月末にかけて12.8%とやや上昇してきています。

2022年Q1 トップ10中央集権型取引所(CEX)

2022年Q1は、CEXの取引高が激減

トップ10 CEX 取引高内訳 (2021年10月~2022年3月)



-40.5%

CEX取引総額トップ10出来高減少
2021年Q4から2022年Q1

CEXトップ10の2022年Q1の現物取引高は合計3兆3100億ドルを記録しました。2021年Q4から急減し、2月はこれまでで最も低い出来高となりました。

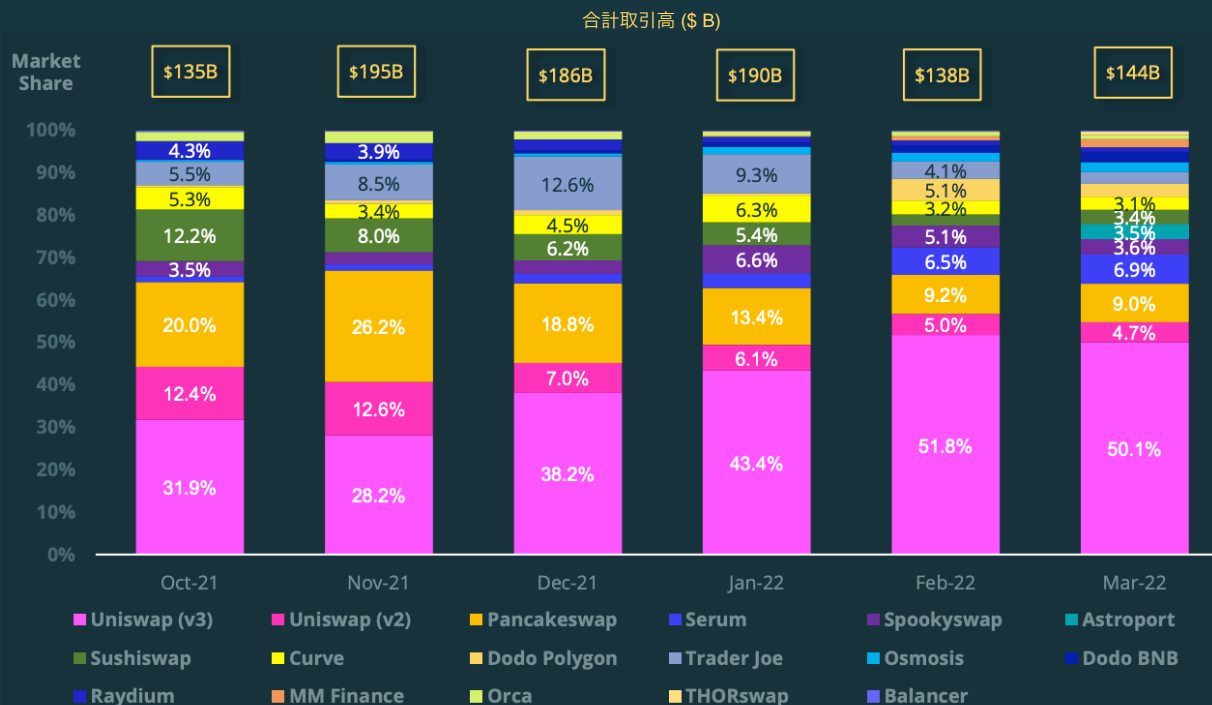
Binanceの2022年Q1の市場シェアは、取引所が中東での営業許可証の取得に成功したこともあり、46.5%とわずかに回復しました。

Huobiの市場シェアは、中国からの撤退により、2021年Q4末から40%近く縮小し、トップ10CEXのうち取引高ベースで4.3%のシェアまで後退し、今期を終了した。

2022年Q1 トップ10分散型取引所(DEX)

DEXの取引高はまずまずのスタートを切ったが、当クォーター末にはやや減少した

トップ10 DEX 取引高内訳 (2021年10月~2022年3月)



-8.5%

DEX取引総額トップ10出来高減少
2021年Q4から2022年Q1

トップ10DEXは、2022年Q1に合計4728億ドルの現物取引高を記録しました。

Q1のDEX取引高は1,900億ドルと好調にスタートした後、急落し、1,440億ドルの取引高で終了しました。

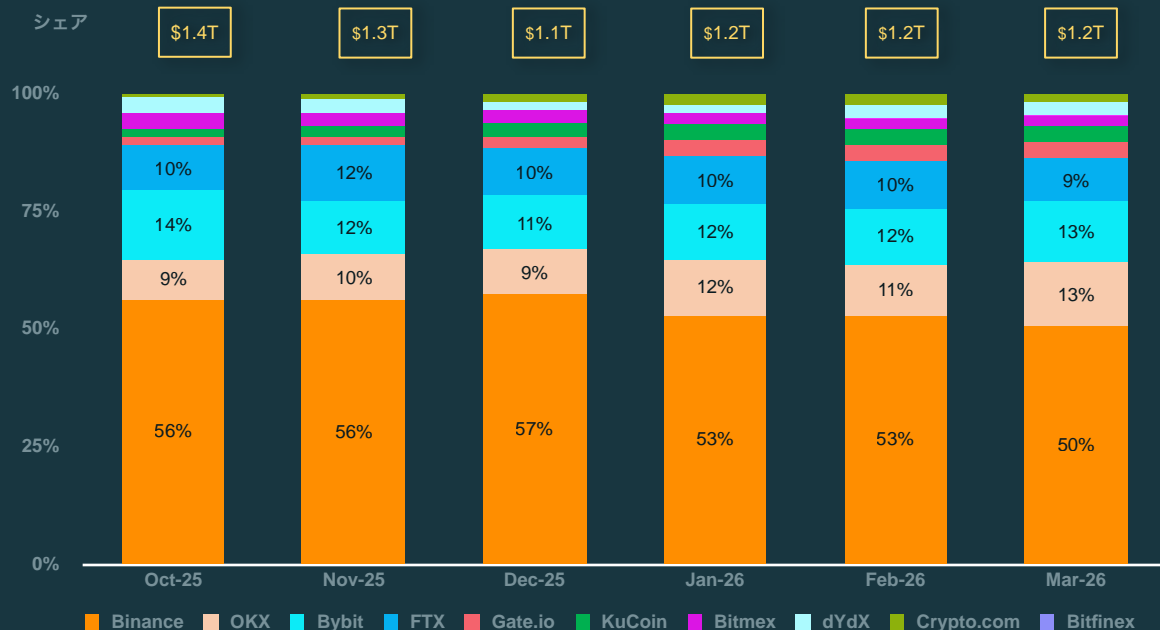
Uniswapは、2022年Q1末までに54%の市場シェアを獲得し、トップのDEX (V2およびV3合計) としての地位を固めました。

一方、続く3大DEXのPancakeswap、Sushiswap、Trader Joeはいずれも市場シェアが大きく減少しました。一方、Serumは今期、大幅な増益となった。

2022年Q1、BTC無期限先物の出来高は停滞した

ビットコイン無期限先物取引高シェアの月間集計 (2021年10月～2022年3月)

合計取引高 (\$ 兆)



-7.3%

トップ10 BTC無期限先物
取引量減少 2022Q1

デリバティブ取引所トップ10におけるビットコイン無期限先物の取引量は、2022年Q1に2000億ドル減少した。

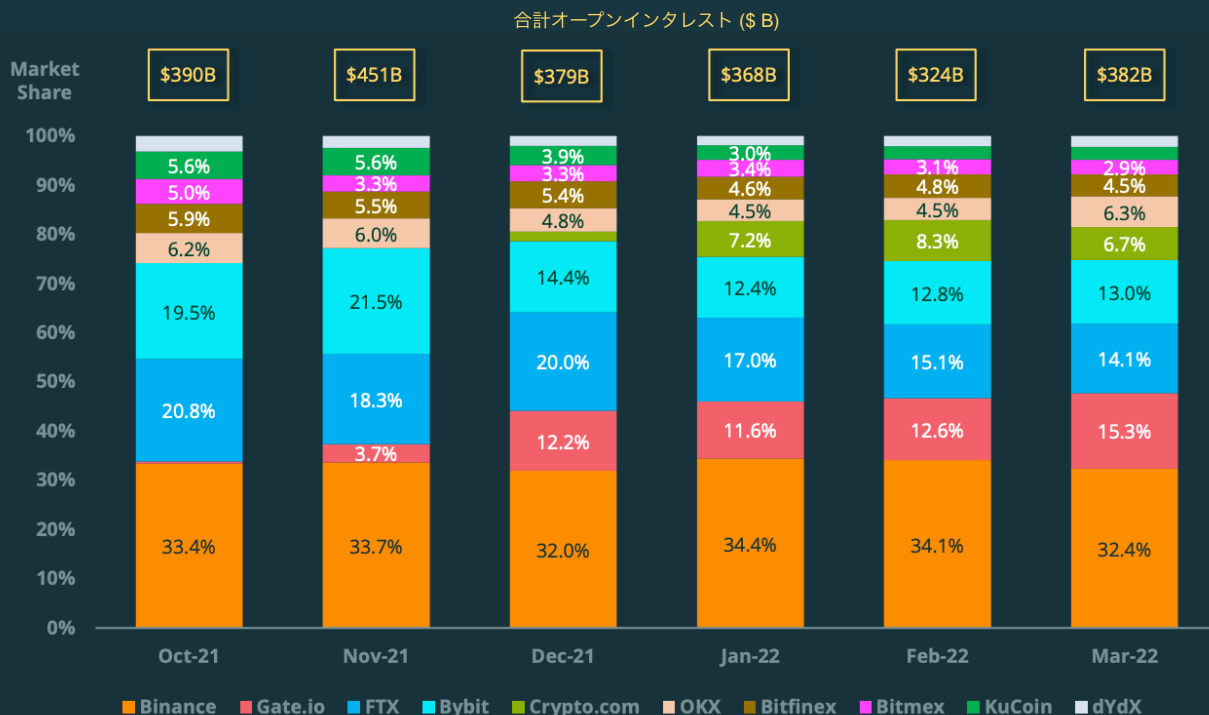
2022年Q1の取引高は1.2兆ドルと、2021年Q4の取引高と同程度に停滞しています。これは、この間、市場が横ばいで推移したためと思われる。

前四半期の開始以来、OKXは静かに4.92%の市場シェアを追加で獲得し、2022年Q1にFTXをわずかに引き離した。

一方、Binanceはマーケットシェアを徐々に失いつつあり、2021年12月以降、7%低下しています。

Gate.ioはBybitとFTXの苦戦を横目に急成長し、市場シェアを高めた

ビットコイン無期限先物オープンインタレストシェアの月間集計 (2021年10月～2022年3月)



-12.1%

トップ10 BTC無期限先物
OI減少 2022Q1

2022年Q1、デリバティブ取引所トップ10におけるオープンインタレスト (OI) は合計1兆700億ドルを記録しました。これは、2021年Q4から-12%という顕著な減少でした。

当四半期を通じて、同じ上位4つの取引所がOIの約75%を占めました。

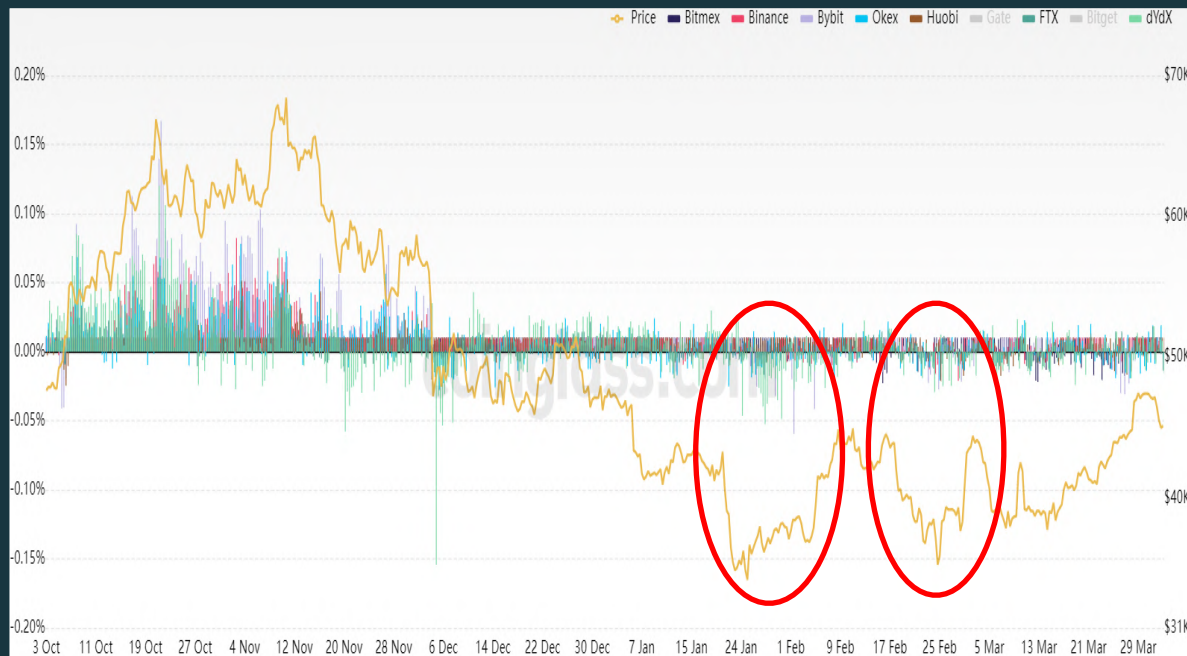
Binanceは、取引所 (1210億ドル) の中で最大のOIシェア (32.4%) を維持しました。

Gate.ioは2021年Q4からの成長の勢いを維持し、現在ビットコイン無期限先物のOIの15%を占めています。

このシェアは、BybitとFTXから奪ったものです。両者とも2022年Q1に市場シェアが減少しています。

一度清算されると二度恥ずかしい - トレーダーは波のような不安定な値動きに学ぶ

8時間足 米ドルマージン型ビットコイン無期限先物 資金調達レート (2021年10月~2022年3月)



0.003% (-0.5 b.p.)

2022年4月1日時点の加重平均
ビットコイン資金調達率

2021年11月下旬のビットコインの第二の強気相場が早々に終了すると、資金調達金利は軒並み低下し、中立水準に近づいた。

ビットコインは1月下旬に弱含みを続けたものの、42kドルから35kドルへの暴落により、2月上旬に40kドルを超えるまでの約1週間、資金調達は大きくマイナスになった。

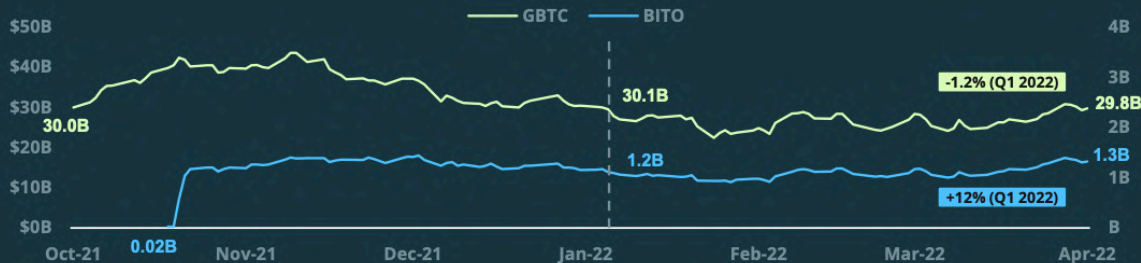
2週間足らずでビットコインは再び40kドルを割り込み、35kドルで底打ちしました。しかし、資金調達金利のマイナスは、以前の-0.05%に比べ、-0.02%程度とかなり小さくなっています。

トレーダーが前回のような再度の反発を予想し、ポジションのヘッジを断念した可能性があります。

2022年Q1 GBTC 及び \$BITO のパフォーマンス

GBTCとBITOは価格低迷下でもAUM(運用資産額)を維持、GBTCはNAVに対して大幅ディスカウント (20%以上)

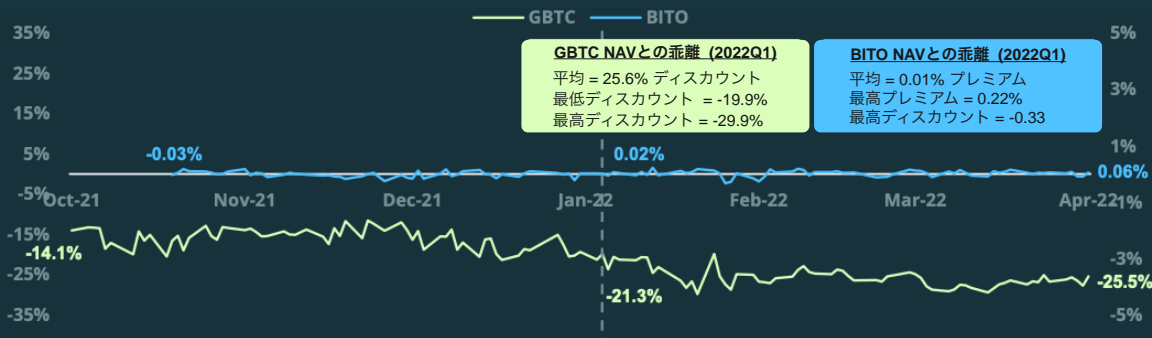
GBTC & BITO の 合計AUM(運用資産額) (2021年10月~2022年3月)



GBTCのAUMは四半期を通じて約300億ドルを維持し、BTC価格の低迷期には最安値で220億ドルまで落ち込みました。BITOは同期間に+12%の穏やかな成長を遂げ、\$0.9Bを下回ることはありませんでした。

BITOは圧倒的な人気と支配力を誇るビットコインETFであり続け、SPBCはわずか~1億1000万ドルのAUMで遠く及ばず、ValkyrieのBTFが~3600万ドルでそれに続いています

2022年Q1のGBTCとBITOの純資産価値 (NAV) に対するプレミアム/ディスカウントについて



GBTC NAVとの乖離 (2022Q1)	BITO NAVとの乖離 (2022Q1)
平均 = 25.6% ディスカウント	平均 = 0.01% プレミアム
最低ディスカウント = -19.9%	最高プレミアム = 0.22%
最高ディスカウント = -29.9%	最高ディスカウント = -0.33%

GBTCは基準価額からの乖離に悩まされ、四半期を通じて20%以上の大幅なディスカウントで取引され、一時は30%にも達しました。

一方、BITOは、GBTCの場合とは異なり、0.33%以上の乖離はなく、基準価額に近い水準で推移しています。

GBTCはETFへの転換を申請しており、これによって基準価額との乖離は解消されるはずですが、SECは7月6日までにこの申請に対する判断を下す予定です。

GeckoCon

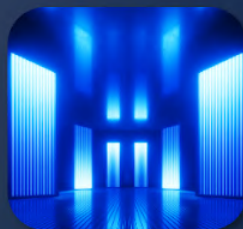
THE DECENTRALIZED FUTURE

14TH - 15TH JULY 2022

By  CoinGecko



120+
Speakers



40+
Sessions



\$50k Worth
of Prizes



Awesome
Activities

EVENT SPONSORS

Bronze



GeckoCon – The Decentralized Future, brings together thought leaders and innovators from across the globe in a virtual conference that explores the advent of Web3. Join us, as we take a deep dive into topics on the Creative Economy, Finance, Governance, and Business.

Join the conversation, visit our website for more information!

EVENT PARTNERS



[CONFERENCE.COINGECKO.COM](https://conference.coingecko.com)



CoinGeckoモバイルアプリのV2が登場! 本バージョンには、以下のような変更と改良が加わりました:

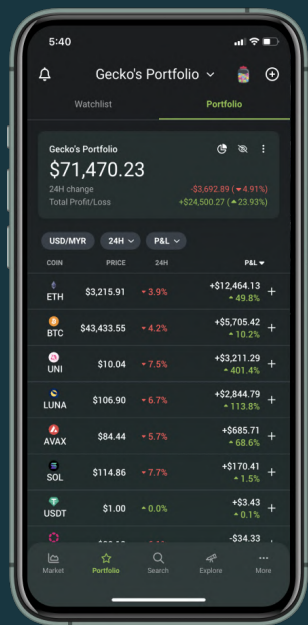
- 昼と夜の両モードで快適に閲覧できるよう最適化された、新鮮でモダンなカラースキーム。
- 重要な情報を明確に伝えることを目的としたユーザーエクスペリエンスを向上
- より快適で軽快なアプリ体験をもたらす多数のパフォーマンス改善

新しいCoinGeckoモバイルアプリをAndroid プレイストアとiOS App ストアで無料でダウンロードできます。

ぜひお試しください。



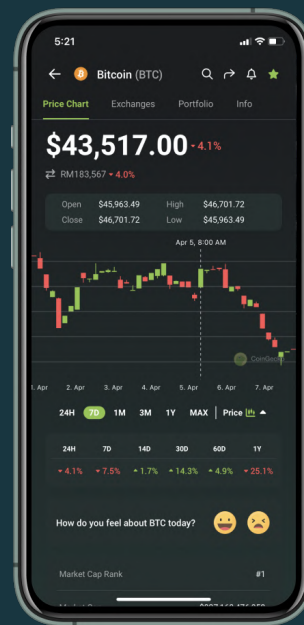
待望の、そして要望の多かった機能がついに登場しました。



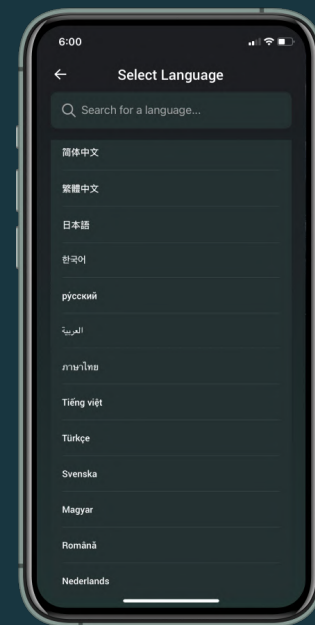
ポートフォリオページ
P&L(損益) コラム



ポートフォリオ
パイチャート



ろうそく足チャート



20言語以上に対応！



フォローをよろしくお願いします！





以上です。ご拝読ありがとうございました😊